資料　１－１

平成２８年度
事　業　報　告

社会福祉法人北ひろしま福祉会

平成２９年　６月２４日

法人本部

平成２８年度

事　業　報　告

法人本部
総務部
管理部（人事部）
ライフサポートセンター
機能訓練センター

社会福祉法人北ひろしま福祉会

平成28年度事業計画に対する取組状況

法人理念　「利用者満足・家族満足の限りなき追求」

法人目標　「すべての人の幸福（しあわせ）のために」

法人スローガン　“Create & Innovation”
「創造と革新」

【はじめに】

平成28年度は、法人理念、法人目標、法人スローガンを基本に運営につとめてきました。平成29年4月からの本格的な改正社会福祉法施行に向けた準備を通じ、あらためて社会福祉法人の存在理由、将来あるべき姿を考える年となりました。個別の計画に対する取組状況は以下のとおりです。

【事業計画と取組状況】

1.「安定した経営の実現」

（計　画）

・法人の中長期計画を策定し、事業所ごとに直面する問題と課題を分析し対応します。
・事業を発展的に継続できる組織を確立し、利用者・家族が安心して暮らせる、職員と家族の安定した生活を守る事業所運営をします。
・法人本部と事業所間の情報共有を密に連携を強化します。
・予算管理の手法を見直し、月次の予実管理で、実績の進捗管理を行います。

（取組状況）

・平成28年度は、社会福祉法人の存在意義の点から、今後の法人の展望を議論しました。具体的な中長期計画は平成29年度に持ち越して策定していきます。
・事業所との情報共有を密にし諸課題の解決に向け連携して取り組みました。
・予実管理による予算管理を実施しましたが、十分な管理状況とは言えませんでした。平成29年度は、より着実に実施していきます。

2.「人材の定着と育成」

（計　画）

・働くすべての職員が、スキルだけでなくプロとして誇りと信念を持てるよう育成をします。
・法人全体での離職率8%以下を目標とします。
・多様な働き方を認める人事制度の導入をします。

・表彰制度の新設（優秀職員賞）など、モチベーション維持のための施策を実施します。
・介護福祉士養成に係る実習生の受け入れ施設として登録し、これからの人材確保に繋げていきます。

（取組状況）

・多様な働き方を認める人事制度の導入、表彰制度の新設、研修の充実により職員のスキルアップとモチベーションの向上に取り組みました。
・平成28年4月から平成29年3月末日までの離職率は、8.51%と目標の8%には届きませんでしたが、前年度と比較して大きく改善することが出来ました。
・介護福祉士実習生の受け入れ実績はありませんでした。今後、養成校との連携に取り組んでいきます。

3．「社会福祉法人の使命として地域福祉の中心としての役割を果たす」

（計　　画）

・制度のはざ間や地域にサービスが不足していることにより、十分な支援が受けられていない人への支援に取り組みます。
・学校や学生並びに地域ボランティアの積極的な受け入れにより、福祉のマンパワーの養成を図るとともに、小学生、中学生、高校生等を対象としたインターシップ体験（職場体験）の受け入れを積極的に行い、障がい者福祉及び高齢者福祉に対する啓蒙・啓発活動を行っていきます。
・積極的に地域と交流を持ち、法人事業についての理解促進を図っていきます。また、や民間企業とも積極的にネットワークづくりをすすめ、情報交換や、福祉業界のイメージアップにも取り組んでいきます。
・地域包括ケアシステム構築に向け地域の他職種連携の中心的な役割を担っていきます

（取組状況）

・地域福祉の中心としての役割を果たすべく、地域の福祉サービスの状況把握、啓蒙・啓発活動の実施、法人事業の理解促進に、様々な場をつうじて取り組みました。
・北広島市において目指す地域包括ケアシステムについて、市や他事業者との情報交換、先進地域での取り組みの情報収集をしました。
・いずれも単年度での事業では無く継続して取り組んでいきます。

4．「サービスの質の向上に向けた取り組み」

（計　　画）

・利用者、ご家族へのアンケートを実施し満足度を計り、その結果を踏まえた取り組みを実施します。
・接遇マナーや言葉使い服装等、基本的なサービス力の向上に取り組みます。

（取組状況）

・利用者、ご家族へのアンケートの実施、職員へのモラールサーベイの実施等、サービスの質の向上に向けた取り組みを実施しました。

5．主な施設整備の状況（実施した施設整備）

・とみがおか　居室結露対策工事（４室）、非常照明電池交換
・共栄　給水・給湯配管改修工事、洗面所改修工事
・北広島セルプ　エレベーター設備改修工事、屋内消火栓改修工事
・就労センタージョブ　職員室フロア改修工事
・北広島デイセンター　１階ボイラー交換工事、暖房不凍液交換工事

平成２８年度　法人事業報告書

（自）　平成２８年　４月　１日

（至）　平成２９年　３月３１日

【平成２９年３月３１日現在】　　　　社会福祉法人　北ひろしま福祉会

1．法人の概要

主たる事務所の所在地	電話番号	代表者名
北広島市朝日町４丁目４番地１１	０１１－３７３－８８０９	理事長　野口　道男
法人認可年月日	法人認可番号	設立登記年月日
昭和２４年　７月１９日	北社　第５６４号指令	昭和２４年　８月１３日

2．法人の行う事業

事業の種類		施設種別	名称	管理者	定員	職員数
社会福祉事業	第1種社会福祉事業	施設入所支援 生活介護 短期入所	とみがおか	永島宏人	８０名 ８０名 ４名	６１名
		施設入所支援 生活介護 短期入所	共栄	小嶋丈典	８０名 ８０名 ４名	６６名
		介護老人福祉施設 短期入所生活介護 介護予防短期入所生活介護	東部緑の苑	佐々木勝彦	１００名 ２０名	７２名
	第2種社会福祉事業	生活介護 就労継続Ｂ型	北広島デイセンター（いんくる）	倉場政直	４０名 ２０名	３４名
		就労継続B型 就労移行支援	北広島セルプ（ガンバ）	中島浩樹	５４名 ６名	２０名
		就労継続B型 就労継続B型 就労移行支援 就労継続Ｂ型	就労センタージョブ まんぞく屋 ヒロパン ステップ あぐり	岩木慎吾	１０名 １０名 １０名 １０名	２８名
		共同生活援助 短期入所	共同生活援助 グリーンパーク北ひろ ２０ヶ所 サテライト型住居３箇	北口寿雄	１００名 短期入所２名	５３名
		身体介護等	フィットマン	北口寿雄	／	７名
		相談支援事業	めーでる	野口敏彦	／	２名
		福祉ホーム	ハーモニー・ほたる	北口寿雄	１５名	兼務３名
		通所介護 介護予防通所介護	デイサービスセンターヴェール	今井正昭	２０名	６名
公益事業	第１号職場適応援助者助成金対象事業			野口敏彦	／	兼務２名
	居宅介護支援事業　ケアプランセンター東部緑の苑			足立耕栄	／	３名

3. 役員等の状況

理事7名

役　　　職	氏　　　名	就任年月日	備　　　考
理 事 長	野 口 道 男	平成27年4月1日	平成29年3月31日まで
常務理事	奥 田 誠	平成27年4月1日	平成29年3月31日まで
理　　事	間 所 公 男	平成27年4月1日	平成29年3月31日まで
理　　事	成 澤 哲 雄	平成27年4月1日	平成29年3月31日まで
理　　事	林 渓 三 郎	平成27年4月1日	平成29年3月31日まで
理　　事	渡 邊 憲 介	平成27年4月1日	平成29年3月31日まで
理　　事	岩 木 慎 吾	平成27年4月1日	平成29年3月31日まで

監事2名

役　　　職	氏　　　名	就任年月日	備　　　考
監　　事	柳 谷 昭 臣	平成27年4月1日	平成29年3月31日まで
監　　事	下 村 英 敏	平成27年4月1日	平成29年3月31日まで

評議員15名

役　　　職	氏　　　名	就任年月日	備　　　考
評 議 員	野 口 道 男	平成29年1月1日	平成29年3月31日まで
評 議 員	奥 田 誠	平成29年1月1日	平成29年3月31日まで
評 議 員	間 所 公 男	平成29年1月1日	平成29年3月31日まで
評 議 員	成 澤 哲 雄	平成29年1月1日	平成29年3月31日まで
評 議 員	林 渓 三 郎	平成29年1月1日	平成29年3月31日まで
評 議 員	渡 邊 憲 介	平成29年1月1日	平成29年3月31日まで
評 議 員	岩 木 慎 吾	平成29年1月1日	平成29年3月31日まで
評 議 員	上 村 弘 志	平成29年1月1日	平成29年3月31日まで
評 議 員	高 本 進	平成29年1月1日	平成29年3月31日まで
評 議 員	本 多 サエ子	平成29年1月1日	平成29年3月31日まで
評 議 員	永 島 宏 人	平成29年1月1日	平成29年3月31日まで
評 議 員	小 嶋 丈 典	平成29年1月1日	平成29年3月31日まで
評 議 員	畑 中 陽 夫	平成29年1月1日	平成29年3月31日まで
評 議 員	安孫子 章 平	平成29年1月1日	平成29年3月31日まで
評 議 員	佐々木 勝 彦	平成29年1月1日	平成29年3月31日まで

苦情解決事業第三者委員　4名

役　　　職	氏　　　名	就任年月日	備　　　考
第三者委員 (障がい者支援事業)	神 部 健 史	平成27年4月1日	平成29年3月31日まで
第三者委員 (障がい者支援事業)	黒 沼 慶 子	平成27年4月1日	平成29年3月31日まで
第三者委員 (介護保険事業)	三 熊 秀 範	平成27年4月1日	平成29年3月31日まで
第三者委員 (介護保険事業)	大 滝 和 子	平成27年4月1日	平成29年3月31日まで

4. 理事会開催状況

開催年月日	出席数	議案・報告事項
第1回 平成28年5月19日	理事 ７名中 ６名出席 欠席者 奥田誠	【議案】 1. 平成27年度事業報告について 2. 平成27年度各拠点区分収支決算報告について 3. 共栄給水・給湯配管改修工事について 4. 北広島セルプエレベーター改修工事について 5. 社会福祉法改正について 6. 平成28年度入札委員会について 【報告事項】 1. 監査報告について 2. 夏季賞与の支給について 3. 平成28年度実施事業に係る共同募金助成結果について 4. キャリアアップ助成金について 5. キャリアパス支援等研修事業補助金について 6. 法人利用者に係る事故及び労災事故について
第２回 平成28年6月14日	理事 ７名中 ６名出席 欠席者 渡邊憲介	【議案】 1. 社会福祉法人北ひろしま福祉会共栄　給水、給湯配管改修工事入札結果について
第３回 平成28年9月20日	理事 ７名中 ５名出席 欠席者 林渓三郎 成澤哲雄	【議案】 1. 法人各事業の状況について 2. 就労センタージョブ大曲地区事業展開について 3. 相談支援事業所の移転について 【報告事項】 1. 監事監査について 2. 共栄給水・給湯配管改修工事について 3. 北広島セルプエレベーター改修工事について 4. 法人利用者に係る事故及び労災事故について
第４回 平成28年12月1日	理事 ７名中 ７名出席	【議案】 1. 平成28年度各拠点区分収支補正予算（案）について 2. 社会福祉法改正に向けた対応について 3. 定款の改定について 4. 法人本部の移転と今後の活用について 5. 市道共栄南１号線道路改築事業について 6. さく井工事入札について 7. 基本財産処分承認申請書の提出につい 8. 減価償却積立金の取り崩しについて 9. 諸規程の改定について 10. 北広島セルプ屋内消火栓設備ポンプ取替工事について 11. 共同募金「施設活動支援事業」助成申請計画の申請について 12. 評議員の選任について 【報告事項】 1. 監事監査報告 2. 年末賞与について

		3.海外研修について 4.法人利用者に係る事故及び労災事故について
第5回 平成29年1月18日	理事 7名中 6名出席 欠席者 成澤哲雄	【議案】 1.社会福祉法人北ひろしま福祉会さく井工事入札結果について 2.評議員選任・解任委員の選任について 3.評議員選任・解任委員会運営規程について 4.基本財産処分承認申請書の提出について 5.定款変更について 6.土地の取得について 7.法人本部新築について 8.減価償却積立金の取り崩しについて 【報告事項】 1.平成29年度整備計画等（防犯対策分）追加協議の申請について 2.市道共栄南1号線改修工事に伴うゴミ庫の移転について
第6回 平成29年2月16日	理事 7名中 6名出席 欠席者 成澤哲雄	【議案】 1.評議員の推薦について 2.施設長、所長人事について
第7回 平成29年3月22日	理事 7名中 6名出席 欠席者 成澤哲雄	【議案】 1.平成28年度各拠点区分収支補正予算（案）について 2.平成29年度事業計画（案）について 3.会計拠点区分について 4.平成29年度各拠点区分収支予算（案）について 5.定款細則の改定について 6.諸規程の改定について 7.減価償却積立金の取り崩しについて 8.法人本部建設用地及び北広島デイセンター駐車場用地売買契約について 9.法人本部建設用地及び北広島デイセンター駐車場用地取得に伴う基本財産の編入について 10.グループホームの開設と福祉ホームハーモニーの廃止について 11.共栄の定員変更につい 【報告事項】 1.監事監査報告 2.評議員の選考について 3.平成29年度海外研修について 4.さく井工事について 5.ゴミ庫工事について 6.法人利用者に係る事故及び労災事故について 7.北広島市による法人指導監査について 8.利用料負担金未納に関する訴訟について 9.役員の選任について

5．評議員会開催状況

開催年月日	出席数	議案・報告事項
第1回 平成28年5月19日	評議員 15名中 14名出席 欠席者	【議案】 1.平成27年度事業報告について 2.平成27年度各拠点区分収支決算報告について 3.共栄給水・給湯配管改修工事について

	奥田誠	4. 北広島セルプエレベーター改修工事について 5. 社会福祉法改正について 6. 平成28年度入札委員会について 【報告事項】 1. 監査報告について 2. 夏季賞与の支給について 3. 平成28年度実施事業に係る共同募金助成結果について 4. キャリアアップ助成金について 5. キャリアパス支援等研修事業補助金について 6. 法人利用者に係る事故及び労災事故について
第２回 平成28年6月14日	評議員 15名中 13名出席 欠席者 渡邊憲介 上村弘志	【議案】 1. 社会福祉法人北ひろしま福祉会共栄　給水、給湯配管改修工事入札結果について
第３回 平成28年9月20日	評議員 15名中 13名出席 欠席者 林溪三郎 成澤哲雄	【議案】 1. 法人各事業の状況について 2. 就労センタージョブ大曲地区事業展開について 3. 相談支援事業所の移転について 【報告事項】 1. 監事監査について 2. 共栄給水・給湯配管改修工事について 3. 北広島セルプエレベーター改修工事について 4. 法人利用者に係る事故及び労災事故について
第４回 平成28年12月1日	評議員 15名中 14名出席 欠席者 安孫子章平	【議案】 1. 平成28年度各拠点区分収支補正予算（案）について 2. 社会福祉法改正に向けた対応について 3. 定款の改定について 4. 法人本部の移転と今後の活用について 5. 市道共栄南１号線道路改築事業について 6. さく井工事入札について 7. 基本財産処分承認申請書の提出につい 8. 減価償却積立金の取り崩しについて 9. 諸規程の改定について 10. 北広島セルプ屋内消火栓設備ポンプ取替工事について 11. 共同募金「施設活動支援事業」助成申請計画の申請について 【報告事項】 1. 監事監査報告 2. 年末賞与について 3. 海外研修について 4. 法人利用者に係る事故及び労災事故について
第５回 平成29年1月18日	評議員 15名中 14名出席 欠席者 成澤哲雄 高本進	【議案】 1. 社会福祉法人北ひろしま福祉会さく井工事入札結果について 2. 基本財産処分承認申請書の提出について 3. 定款変更について 4. 土地の取得について 5. 法人本部新築について 6. 減価償却積立金の取り崩しについて 【報告事項】 1. 平成29年度整備計画等（防犯対策分）追加協議の申請について

		2. 市道共栄南１号線改修工事に伴うゴミ庫の移転について
第６回 平成29年3月22日	評議員 15名中 11名出席 欠席者 成澤哲雄 安孫子章平 永島宏人 本多サエ子	【議案】 1. 平成28年度各拠点区分収支補正予算（案）について 2. 平成29年度事業計画（案）について 3. 会計拠点区分について 4. 平成29年度各拠点区分収支予算（案）について 5. 定款細則の改定について 6. 諸規程の改定について 7. 減価償却積立金の取り崩しについて 8. 法人本部建設用地及び北広島デイセンター駐車場用地売買契約について 9. 法人本部建設用地及び北広島デイセンター駐車場用地取得に伴う基本財産の編入について 10. グループホームの開設と福祉ホームハーモニーの廃止について 11. 共栄の定員変更につい 12. 役員の選任について 【報告事項】 1. 監事監査報告 2. 評議員選任・解任委員の選任について 3. 評議員の選考について 4. 施設長・所長人事について 5. 平成29年度海外研修について 6. さく井工事について 7. ゴミ庫工事について 8. 法人利用者に係る事故及び労災事故について 9. 北広島市による法人指導監査について 10. 利用料負担金未納に関する訴訟について

期　　日	内容
平成28年8月30日	共栄給水・給湯工事完了
平成28年9月10日	北広島セルプエレベーター改修工事完了
平成28年7月29日～7月31日	第５３回施設開放事業
平成28年11月5日～11月13日	オーストラリア研修（メルボルン・シドニー）
平成28年12月26日～28日	第５４回施設開放事業
平成29年3月31日	さく井工事完了
平成29年3月31日	ゴミ庫移転工事完了
平成29年3月31日	グループホームかえでサテライト廃止（定員１名）
平成29年3月31日	グループホームあさひサテライト廃止（定員１名）
平成29年3月31日	福祉ホームハーモニー廃止（定員１０名）

平成２８年度事業報告　総務部

～目標「法人を支える基盤を創る」～

～スローガン「縁の下の力持ち」～

１．予実管理への対応

（１）月次に対する予実管理は初年度で手探りの対応でしたが、様式が安定しなかったことや、予算数値の算定におけるスタッフ一人ひとりのスキルにバラつきが生じてしまい万全な予実管理が行えたとは言えませんでした。

平成28年度に行ってきた内容を踏まえ平成29年度に向け新様式を作成し安定させることと、スタッフのスキルアップを図れるようにしていきます。

２．経費削減の取り組み

（１）総務部の事務用品負担金額を364,500円（平成27年実績405,000円の10%カット）と設定し、ソフトウェアの効率的な運用によるコピー用紙や消耗品の削減に取り組みました。

平成28年度の実績は367,760円と目標を下回ることができませんでしたが、スタッフ一人ひとりが目標数値に対して常に意識を持って今後は新たな取り組みをしていきます。

（２）業務において備品を導入することにより、費用対効果が得られる事例があれば積極的にフィードバックする取り組みを行いました。

※総務部では郵便物発送業務に対する簡素化を目的とした「紙折り機」のデモを行い、請求書・領収書の発送作業で効率的だったため平成29年度の予算化をしました。

※法人全体では平成29年4月より事業系ゴミ処理費用の値上の打診があり、容積で算定をする特性を利用した「ゴミ圧縮機」の導入によるゴミ処理費用削減についての提案をしました。

導入による費用対効果は明確ですが、ゴミ処理のサイクルの変更に対する職員への周知・対応が簡単ではないこと、予算申請時期に間に合わなかったことから平成29年度の予算化とはなりませんでした。

法人全体ではなく一部の事業所で導入し、効果を検証して他事業所への導入を検討するなどの取り組みをしていきます。

今後も経費削減に関する模索を継続し、法人の収支差額アップに少しでも貢献できる取り組みをしていきます。

平成２８年度事業報告　人事部（管理部）

スローガン　　育てよう「ひと」

管理部事業内容

１．人事

（１）人材定着

法人全体の離職率８％以下を目指す。⇒３３名　　８.５１％（0.51%未達）

◇障がい５％（１５名以下）　　　⇒１７名　　５.５７％（0.57%未達）

高齢１６％（１５名以下）　　　⇒１６名　１９.２８％（3.28%未達）

◇勤続年数　　正職員平均　　　５.6年（男６.５年・女４.５年）⇒２０２０年迄に８年

２０１６年（平成２８年度）　５.８年（男６.９年・女４.９年）

【具体的な施策】

①４年目のモラール・サーベイの実施　⇒　法人全体　５９．８９点

前年平均　６２．２１点（―２．３２）　全国平均　５８．４６点（＋１．４３）

②モラール・サーベイの分析結果を踏まえた対応

障がい分野⇒入所施設勤務職員への対策

・役職者に対し意見交換の場を設定する（研修委員会との連携）

平成２７年度とみがおか役職者のポイントが低かった（４８．７５点）

分析結果を事業所へフィードバックし、対策をとった。

平成２８年度の役職者のポイントは改善した（６２．０点）

とみがおか、共栄とも直接サービス職員のポイントが全国平均以下

労働時間に関する満足度が低い

平成２９年度は能力開発室において役職者研修を実施し、その中で意見聴取を行い

解決をはかる。

高齢分野　⇒パートタイム職員への対策

・研修参加や意見交換の場を設定する（特養と連携）

正職員との処遇格差、人間関係、顧客満足のポイントが低い

正職員への転換や処遇改善（時給・手当）の改善をはかった

事業所長が継続して面談の機会を設け意見交換を行っていく

③入職１年目～３年目職員のリテンション対策（研修委員会との連携）

１年目、２年目職員へのフォローアップ研修の実施。

３年目職員の対策としては、スタンダード研修の中でフォーローした。

Ｈ２８年退職者３３名中　新卒採用者３年未満退職　３名（9.09%）

新卒採用（Ｈ２６･２８年　５１名）中　３年未満退職５名（9.8%）

課題　中途採用者の定着が課題

④「きらり・スピリッツ賞」の実施。

前後期の２回行った。３個人・４団体に対して授与した。

（２）採用促進

新卒・中途の人材確保

①バランスの良い男女比率による採用

H29 年新卒採用　男 6＋女 6＝12、H28 年中途採用　男 10＋女 14＝24

②中途採用（若手 30 歳前半迄の人材採用）

H28 年度中途採用　20 歳以上 35 歳以下　9 名採用

③福祉職場のイメージアップ

・説明会でのプレゼン内容や配布物の刷新

社会福祉法人の役割（地域貢献、社会貢献）をアピール、採用パンフレット刷新

・SNS、ホームページ等の広報活動と連動したイメージアップ

Line の新規利用、facebook,ホームページでの広報活動

・社協や学校、人材会社主催の説明会への参加を増やす。

ダイヤモンド就活ナビや自衛隊援護センター説明会に参加

（３）多様な働き方を認める人事制度の制定

新たな正職員制度導入

①限定正職員制度　H28 年 7 月より新制度導入

初年度　総合職３名、職務限定４名、短時間限定２名

（４）女性管理職登用に向けた取組

①女性活躍推進法に対応した事業主行動計画の作成。

・女性勤続年数を男性と同程度へ引き上げる

職員平均５.８年（男６.９年・女４.９年）

②２年以内（2018 年まで）に女性管理職＝課長職を登用

めーでるに女性管理職（課長）登用

２．広報

（１）ホームページの充実

掲載頻度のアップ

・最低週１回の情報更新（SEO 対策）

１週間に１回の更新はできなかったが、ホームページの閲覧数はわずかではあるが増加している。採用時にホームページを見て応募する方が増えている。

SNS との使い分けが今後の課題である。

（２）Facebook の充実

・「いいね！」H28 年度中に 400 迄伸ばす。　⇒　目標達成（5 月 1 日現在 433 件）

・事業所の広報委員をとおした情報提供を強化。

広報委員輪番で事業所の行事や取組について発信を行った。

（３）蝦夷援護咲の充実

・社会福祉法人を知ってもらうため、より一般の方を意識した内容へ変えていく。
地域福祉の拠点としての役割を意識した紙面づくりを継続していく。

３．ＩＴ

（１）事業所におけるIT人材の育成

・事業所ごとにIT担当者を配置し管理部IT担当と連携を取り対応する。
・リモートサービスを使い、遠隔操作により対応する。

出来る限り事業所で対応できるようリモートサービスなどを使いながら対応してきた。

（２）ITを駆使して事業所のサービス力向上に向けた情報提供及び技術支援

H28年度については具体的な取り組みはできなかった。部長会や課長会で事業所ではどんなことを求めているのか、ITを使ってどんなことがしたいのかを把握し、提案していきたい。

４．ＢＣＰ

（１）安否確認システムを使った訓練　⇒　年４回実施した。

（２）法人全体の避難訓練と地域町内会と連動した防災訓練

管理職対象の緊急対策本部設置訓練を行った。
市役所主催の東部地区防災教室にてDIG,HUG研修に参加した。

（３）事業所ごとの施設設備状況のとりまとめ

BCP事業所委員を中心に事業所の施設設備状況のマニュアルを取りまとめした。

（４）BCP研修の実施

スタンダード研修において「HUG（避難所運営ゲーム」」研修を行った。

平成２８年度　事業報告　ライフサポートセンター

≪平成 28 年度の取り組み状況≫

◎ライフサポートセンターとして各事業所の利用者動向の把握に努めました。

◎会計担当との連携も行いながら利用者の円滑なサービス利用に努めました。利用者の入退所、新規契約、受給者証の管理をし、事業に変更がある際には事業変更、申請業務を滞りなく行っています。また、毎月各所の受給者状況、サービス変更状況などを集計し報告をしています。

◎特別支援学校・養護学校等との連絡、訪問、見学、実習を通し広く法人サービスを紹介し、平成 29 年度の新規利用に至っています。長期休みの私的体験利用、事業所見学会、一日体験会等を行い、生徒や保護者により身近にわかりやすく事業所紹介ができるように取り組んでいます。ジョブについては、新卒利用者が２名に止まったことから利用者確保は今後の課題です。

◎短期入所、日中一時支援の利用受付窓口として利用者の希望を承り調整してきました。ケースごとに希望を受けて、各所との調整をしできるだけ希望に添えるように対応しましたが、課題としては、契約件数が増え、個々のニーズの多様化により複数のサービスの組み合わせ、調整など相談員が把握する量、範囲が増えていることです。

1. 各事業所契約数（平成 28 年 3 月 31 日）

事　業　種　別	契約件数
とみがおか	82 件
〃　生活介護	83 件
〃　短期入所	35 件
共栄	78 件
〃　生活介護	80 件
〃　短期入所	24 件
北広島デイセンター生活介護	55 件
〃　就労継続Ｂ型いんくる	23 件
北広島セルプ　就労継続Ｂ型	66 件
〃　就労移行	6 件
就労センタージョブ　就労継続Ｂ型	37 件
〃　就労移行	10 件
グリーンパーク北ひろ（共同生活援助）	100 件
〃　短期入所	33 件
〃　福祉ホーム	7 件
フィットマン（地域生活支援事業）	109 件
〃　（居宅介護事業）	4 件
計（のべ）	828 件

○通所、グループホーム、地域生活支援事業の契約者数が増加しています。

○通所利用者、学齢期の方の共栄、とみがおか、グループホームでの短期入所の希望と共に契約数が増えています。

2. 新規利用契約者・退所者数・サービス変更

事　業　種　別	新規契約件数	退所手続件数
とみがおか	2件	2件
とみがおか生活介護	3件	2件
共栄	2件	6件
共栄生活介護	2件	6件
北広島デイセンター生活介護	5件	3件
〃　就労継続B型いんくる	1件	2件
北広島セルプ　就労継続B型	1件	5件
〃　就労移行	4件	1件
就労センタージョブ　就労継続B型	1件	5件
〃　就労移行	3件	1件
グリーンパーク北ひろ(共同生活援助)	3件	5件
〃　福祉ホーム	0件	2件
計	27件	40件

○契約更新については、郵送による契約、新規利用契約については、面談をしながら契約を行っています。新規通所利用者については、自宅訪問をして契約を行っています。

○共栄では、死亡による退所が多かったです。

3. 相談件数

相　談　内　容	件数
入所施設関係	17件
通所施設関係	31件
地域支援関係(GH)	15件
短期入所関係	13件
在宅支援サービス関係	19件
養護学校実習、進路相談等	28件
成年後見に関すること	3件
利用料金に関すること	7件
健康保険、障害年金等	6件
見学依頼	79件
その他(学生の実習依頼等)	8件
計	226件

○電話での相談が多く、面談までいくことはそのうちの半数程度です。

○後見制度、施設入所の相談が多かったです。

4. 来訪者、見学件数

	個人	団体
とみがおか	14 件	1 件
共栄	9 件	3 件
北広島デイセンター	11 件	4 件
北広島セルプ	11 件	3 件
就労センタージョブ	11 件	5 件
グリーンパーク北ひろ	23 件	5 件
フィットマン	6 件	0 件

	見学者数
見学(個人)	118 名
見学(団体)	68 名
計	186 名

主な見学団体名
南幌町精神障がい者の親の会
当別町児童民生委員協議会
厚田はまなすの会
チャレンジキャンパスさっぽろ

○学校からの働き掛けもあり、1、2 年生時での保護者と本人との見学が多かったです。
○チャレンジキャンパスなど、他事業所からの将来利用できる障がいサービスを知りたいという希望があります。

5. 特別支援学校・養護学校等実習　集計

	実習人数		実習日数	
	男性	女性	男性	女性
とみがおか	1 人	人	3 日	日
共栄	人	人	日	日
北広島デイセンター生活介護	7 人	4 人	44 日	25 日
〃　　いんくる	2 人	人	8 日	5 日
北広島セルプ	8 人	1 人	48 日	5 日
就労センタージョブ	人	4 人	日	48 日
グリーンパーク北ひろ	4 人	1 人	27 日	12 日
計	22 人	10 人	130 日	95 日
合計	32 人		225 日	

○生活介護、グループホームの利用希望が増えています。また、依然として施設入所希望は多いです。

6. 大学・専門学校実習　集計

	実習人数	
	男性	女性
とみがおか	2 人	5 人
共栄	0 人	6 人
北広島デイセンター	0 人	9 人
北広島セルプ	1 人	5 人
就労センタージョブ	0 人	0 人
グリーンパーク北ひろ	0 人	0 人
計	3 人	21 人
合計	28 人	

実習種別人数

	実習人数	
	男性	女性
保育士	0 人	18 人
社会福祉士	3 人	3 人
介護福祉士	0 人	0 人
栄養士	0 人	4 人
計	28 人	

○保育士の実習依頼は減っています。また、介護福祉士の実習依頼はありませんでした。

7．申請業務関係

障害基礎年金申請	利用回数	
	男性	女性
とみがおか	1 人	0 人
共栄	0 人	0 人
計	1 人	0 人

平成28年度　機能訓練センター事業報告

平成28年度機能訓練センター事業計画について報告致します。

1．機能訓練内容について、専門職員による支援現場にもわかりやすくパターン化したメニューつくりと定期的評価の実施。

統一した書式および訓練メニューの導入は実施し機能訓練センター理学療法士による身体評価は対象者すべてに実施しました。
しかし支援現場への周知に時間がかかり、前期に評価は終了しましたが後期からの実施となっています。その為、定期的な評価は２９年度に持ち越しています。
機能訓練センターでの専門訓練と作製したリハビリテーション計画書による支援現場での訓練により、結果良好のため７５名中１０名の方が集中的な訓練を終了されています。（数値目標５名）
特に、作製した訓練計画による支援職員実施の訓練が良い結果を出しています。
摂食嚥下訓練については、言語聴覚士の訪問指導は実施しましたが評価システム等の構築は出来ず、２９年度に持ち越しています。現在評価システムはほぼ完成しており周知作業を行っていきます。

2．リハビリテーション工学の試験的対応（車椅子クッションや自助具の作成）

事例は少ないが車椅子クッション等を作製し状況に応じて利用者様に提供しました。
車椅子等の福祉用具については日常生活上不可欠なものであるため、専門の部品交換が必要な場合を除き、車椅子の修理および福祉用具の修理加工はほぼ対応可能となりました。転倒防止の保護帽子の修理や車椅子クッションカバー等の修理は、ミシン等により修理業者に依頼しなくても修理可能なケースが増えています。

3．介護技術および福祉用具の積極的導入と導入後の使用確認と指導（腰痛対策を含め）

機能訓練専門委員会で介護技術の研修を実施。また、法人内研修で介護技術や福祉用具の研修を機能訓練専門員が講師となり実施しています。
福祉用具については、国際福祉機器展に参加した職員が商品についての発表を行い、さらに法人内メールにて紹介を行っています。
また、福祉用具の点検や使用方法について、機能訓練専門委員会で検討し早期の対応が進んでいます。
機能訓練専門委員会で実際に装具や福祉用具の作製を行っている業者の見学を実施。作製過程を見ることで重要性と専門性を高めることができました。
腰痛対策として、介護保険施設では１５名程、障がい施設で２名の講習検定を実施しています。
移乗具についても天井走行リフト３社・移乗用具３社等のデモを行い使用可否の検討を行っています。

4．介護保険施設への対応（東部緑の苑機能訓練士との連携）

福祉用具の導入についての対応を行っています。

また、上記記入の腰痛対策等について連携対応を行っています。

５．理学療法士実習受け入れによる外部専門職および関係機関との連携強化

北海道医療大学より理学療法士の実習受け入れを実施。今年度は未実施だが大学授業への参加等の関係強化や難解ケースへの相談対応については連携確保できています。

また、北海道大学大学院との連携により車椅子シーティング理論であるＡＢＳ（アクティブバランスシーティング）の講習会等に参加し実際に姿勢保持が困難な利用者にＡＢＳ車椅子を導入し、日常生活と健康を向上させることができました。

６．研修関係

①法人内研修（G1）講師担当

「日常生活・食事支援・機能訓練」

②内部自主研修（機能訓練専門委員が講師）

「靴選び」　「インナーマッスル」　「血圧について」　「車椅子確認」　「視覚障害」

「摂食嚥下」「古武術介護」「体験学習　ＲＯＭ等」

機能訓練専門委員会施設見学

義肢装具業者

福祉用具作製業者

③施設外専門研修

- 心理リハビリテーション動作法月例会訓練研修　年８回
- 国際福祉機器展　事例発表　機器および研修会
- 重症心身障害児者守る会全道大会
- 看護研修摂食嚥下研修
- 看護実践セミナー　がんリハビリテーション研修
- 日中活動支援協議会北海道地区研修会
- 権利擁護セミナー
- 重症心身障害看護師教育課程研修
- アクティブバランスシーティング研修
- 発達障害セミナー
- 北海道療育園実践報告会

とみがおか

平成２８年度
事　業　報　告

社会福祉法人北ひろしま福祉会

平成２８年度　事業報告　とみがおか

施設入所支援・生活介護・短期入所・日中一時支援

2017. 3. 31 現在

1．とみがおかサービス別利用者状況

	定員	現員	充足率
施設入所支援	80	82	103%
生活介護	80	82	103%

《月別入退所状況》

		４月	５月	６月	７月	８月	９月
施設入所支援	入所						
	退所				1		
生活介護	入所						
	退所				1		

		１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計
施設入所支援	入所	1						1
	退所							1
生活介護	入所	1		1				2
	退所							1

※7 月～1 名退所　10 月～1 名入所（施設入所支援・生活介護）　12 月～1 名入所（生活介護）

2．援護の実施機関別利用者状況

生活介護					
実施機関	人員	実施機関	人員	実施機関	人員
【札幌市】	【29】	【道内市町村】	【52】	【道外】	【2】
中央区	2	旭川市	1	小金井市（東京都）	1
北区	4	石狩市	1	稲毛区（千葉県）	1
清田区	3	岩見沢市	1		
白石区	4	恵庭市	5		
豊平区	4	江別市	6		
厚別区	1	小樽市	5		
東区	5	北広島市	14		
南区	6	新十津川町	1		
		伊達市	1		
		千歳市	9		
		当別町	1		
		七飯町	1		
		美唄市	2		
		深川市	1		
		別海町	2		
		新ひだか町	1		
				合計	８３名

3．施設入所支援年齢別利用者状況

性別＼年齢	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	合計
男	0	15	20	25	1	0	0	61
女	0	0	11	10	0	0	0	21
合計	0	15	31	35	1	0	0	82

※平均年齢～37.3 歳

4．施設入所支援利用者障害状況

◎障害程度区分

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男	0	0	0	1	7	53	61
女	0	0	0	1	1	19	21
合計	0	0	0	2	8	72	82

※平均区分～5.8　区分変更～合計16名（区分5：2名　区分6：14名）

◎身体障害（身障手帳等級）

	1級	2級	3級	4級	5級	6級	合計
男	0	0	2	0	2	0	4
女	1	1	0	0	0	0	2
合計	1	1	2	0	2	0	6

◎障害別状況

	知的障害	脳性麻痺	四肢麻痺	体幹機能障害	てんかん
男	61	1	0	1	28
女	21	2	0	2	11
合計	82	3	0	3	39

※障害が重複している場合もある為数字は延べ人数
※数字は延べ人数

5．日中活動（生活介護）概要

活動	内容
体力健康維持	情緒安定と体力維持を目的としたウォーキング等のプログラム
ダイエット活動	生活習慣病のリスクと基礎代謝の低下を日中活動の中で解消・軽減し、健康的な身体をつくることを目的としたプログラム
ペットボトル分別活動	ペットボトル分別を主としたリサイクル活動の軽作業プログラム
清掃活動	館内の清掃を主とした軽作業プログラム
椎茸・リサイクル活動	椎茸栽培（ホダ木運搬・展開・収穫等）とシール剥がしを主とした軽作業プログラム
地域活動	街の中に活動の拠点を求め地域資源を有効に活用すること、地域住民との交流、地域に貢献し市民としての役割を果たすこと、生活を豊かにすることを目的としたプログラム
レクリエーション活動	創作、カラオケ、写真、紙粘土、DVD（映画鑑賞）など楽しむことを目的に選択できるプログラム
食器下膳及び洗浄補助	とみがおか厨房（日清医療食品）における食器下膳業務の補助及び食器洗浄業務

※とみがおか生活介護の３本柱として、「はたらく」・「たのしむ」・「けんこう」の軸を掲げ活動展開をしている。活動展開という形だけでなく、利用者のニーズと生活介護の内容の追及、目標設定など今後の課題としている。

６．年間主要行事

月	内容
4月	新採用職員オリエンテーション、スタンダード研修、行事企画（新任職員紹介）、緑の郷総会、合同消防訓練
5月	行事企画（お花見会）、スタンダード研修、利用者健康診断、春の環境整備、緑の郷旅行（登別）
6月	緑の郷旅行（登別）、スタンダード研修、新職フォローアップ研修、ワックスがけ、行事企画（リストランテとみ）
7月	管理職研修、スタンダード研修、肺炎球菌ワクチン接種、療育キャンプ、行事企画（屋外プール）
8月	施設開放事業（夏）、行事企画（花火大会）、ST訪問指導、スタンダード研修、市民の郷祭り
9月	ＯＴ訪問指導、スタンダード研修、職員健康診断、虐待防止研修、行事企画（音楽祭）、合同避難訓練、非常食訓練、緑の郷旅行（小樽近郊日帰り）、胃がん検診、婦人科検診、前立腺がん検診
10月	スタンダード研修、緑の郷旅行（小樽近郊宿泊）、秋の環境整備、玄関インターフォン工事、国際福祉機器展、４法人合同個別支援計画研修
11月	行事企画（味覚祭）、ＳＴ訪問指導、海外研修（オーストラリア）、スタンダード研修、インフルエンザ予防接種、北の甲子園大会、法人内研修（衛生・感染）、合同巡視
12月	海外研修報告会、４法人合同個別支援計画研修、ワックスがけ、二年目職員フォローアップ研修、行事企画（年賀状づくり）、ＯＴ訪問指導、クリスマス会、施設開放事業（冬）、行事企画（年越しパーティ）、権利擁護セミナー
1月	行事企画（初詣）、行事企画（書初め）、幹部職員研修会、４法人合同個別支援計画研修
2月	行事企画（節分）、子宮がん・乳がん・骨粗しょう症検診、アメニティフォーラム、夜勤職員健康診断、ＯＴ訪問指導
3月	４法人合同個別支援計画研修、キャリアパス支援事業研修会

※特別プログラム・個別外出は随時実施

7．研修・会議関係

内部研修	ブラッシング講習、サービス向上研修会、人権・権利擁護研修、 新人職員研修、スタンダード研修
会議	（毎月）人権・権利擁護ミーティング、役職者・支援調整会議、食事会議、生活介護会議、医務会議、施設入所支援会議、 リスク会議、ケース検討会議、計画書改善会議 （随時）個別支援計画作成会議、モニタリング会議、栄養ケア会議

8．その他

①ボランティア受け入れ状況

・行事ボランティア（法人行事参加）～大学生、短大生、専門学校生、高校生

・被服補修ボランティア（毎月）～いいとも会

②研修・実習受け入れ状況

学校名	社会福祉施設実習	社会福祉援助技術現場実習	介護実習	保育実習	施設実習	介護等体験	栄養士実習
道都大学社会福祉学部		1					
北海道医療大学看護福祉学部		1					
北海道文教大学							1
天使大学看護栄養学部栄養学科							1
札幌国際大学短期大学部				2			
北星学園大学社会福祉学部		1					
	0	3	0	2	0	0	2

計７名

③短期入所利用状況

平成 27 年度	男性	女性	合計
延べ利用人数	150	73	223 名
延べ利用日数	336	144	480 日

平成 28 年度	男性	女性	合計
延べ利用人数	155	81	236 名
延べ利用日数	369	191	560 日

※新規 13 名利用（男性 5 名・女性 8 名）

④日中一時支援利用状況

平成 27 年度	男性	女性	合計
延べ利用人数（一般型）	11	3	14 名

平成 28 年度	男性	女性	合計
延べ利用人数（一般型）	5	12	17 名

９．まとめ

◎平成28年度事業計画に対する報告

1．人権尊重と権利擁護への高い意識レベルを持つ取り組み

今年度職員一人一人どんな気持ちで利用者の人権を尊重していこうとするのかを宣言し、顔写真入りで張り出した（施設内３か所）。
更に、職員は毎日、食事・入浴の各場面において権利擁護宣言を行い、そのうえで支援に取り組んだ。
パートの会議、役職者会議など、毎月行う会議の冒頭で人権擁護会議を行った。その中では実践内容の振り返りをし、改善策を検討したり、取り組みを評価したりしている。今年度の取り組みとしては、「このような経験を行うとこのような表情だった・行動があった」など、「快」の部分に注目し、より多くの経験や体験を作ることを心がけて支援することにより、「このような支援はしない」から、より積極的に人権を尊重していくようにした。
また、リスク・権利擁護委員会を立ち上げ、利用者の行動面や環境面から人権を守る取り組み（危険予知トレーニング）やサポートブックを作成し利用者一人ひとりの「意思」に着目して、「どのような配慮をすれば」という支援にいかす方向に向かっている。

2．ライフサポートシステムに基づいて利用者の生活・人生のコーディネート

ライフサポートシステムに基づいて利用者を知ること、家庭での様子を知ること等に心掛け、必要に応じて他部署との連携を図った。短期入所の受け入れも日中一時や短時間の訪問を重ねながら「知ること」「知り合うこと」を重視して取り組むことができた。また、相談事業所との会議やミーティングを重ね地域連携を図ることにより地域貢献にもつなげていきながら、利用者を中心に人生をサポートしていくシステム作りを継続していく。

3．より専門的かつ効果的な日中プログラムの提案

地域資源を活用した活動プログラムを展開することができた。しかし、全体としてはまだ日中活動の支援が不十分（生活介護の考え方やとらえ方）な状況があるので、課題として29年度の重点目標とした。そして、日中活動を通じて「はたらく・はたらきかける」ことへの取り組みにより社会参加を促進していく。

4．優れた人間性と高い専門性を両立した職員の育成

障害者施設における優れた人間性とは「人に対する愛情深さ・優しさ」と「利用者の生活を少しでも向上させたいという情熱」である。専門性とはアセスメント・計画作成から実施・モニタリング等の専門的力量であり、両方が育成されなければならない。その中で28年度は、利用者の意思を支援する上で「ジレンマ」に辿り着いた。その利用者行動や意思をいろいろな視点で考察し、分析することで支援の本質や利用者の意思により近づけていくことの必要性がわかった段階にきている為、次年度につなげていく。

スタンダード研修など、職員が学ぶ機会が多くなり、それが職員の資質向上につながっていると実感できた年であった。さらに29年度もサービス向上委員会を中心に、実践を向上させる人材育成のための短時間勉強会や報告会を行っていく。

５．大規模災害を想定した防災の体制づくりと備え、

法人のＢＣＰ委員会と歩調を合わせて施設の防災対策・災害対策を進めてきた。
29年度は備品台帳整備、災害時に作動する機器類の取り扱いマニュアルの周知等に取り組む。

６．衣・食・住と生きがいの追求（その人らしい生活をするために）

（衣）

今年度は「人権尊重としての衣類等身だしなみや支援の在り方」を追求してきた。これは引き続き行っていく（意思決定を尊重しつつ社会的に違和感のない年齢相応な服装など）。また、利用者の嗜好や意思をくみ取り、衣類や身だしなみの取り組みを追求していく。

（食）

栄養ケア計画（健康と栄養）と食事委員会（食や心の豊かさを育む取り組み）の連携により、食事支援（豊かな食事）の実践を充実させる取り組みをＰＤＣＡで繰り返し、より個人のニーズにこたえる食事支援を追求してきた。食から心の豊かさを育み、生活の柱として29年度も継続し充実を図る。

（住）

個別支援計画作成会議及びモニタリング会議を充実させるよう取り組んできた。今後も計画自体を目的達成型にし地域資源をも意識した計画づくり（24時間シート・アセスメントシート）をし、「住」を豊か（住環境の配慮）にしていく。また、各パートの特性を十分に発揮して明確化していく。

７．個人の意思を尊重した地域移行の推進

今年度とみがおかから地域生活へ移行された利用者はいなかった。利用者の見学や体験を推進しニーズを育てるような取り組みができなかったので 29 年度は取り組んでいく。また制度的にも地域移行への取り組みが重要視されているため、重度の障がいや強度行動障がいの方への取り組みも視野に入れていく。

８．端末機器の活用

アイパッドなどの端末機器を活用し、個別支援計画や保護者説明など映像を利用し情報共有することができた。また、利用者支援についても「意思決定」に重点をおいて、一つのツールとして端末機器を使用することで利用者の反応や行動が明確に表出しているので、今後も継続して利用者の意思をくみ取る支援をしていく。

◎経営に関して

１．稼働率確保

・年間平均稼働率（定員ベース）＝施設入所支援：100.24％　生活介護：100.66％

（H27 年度＝施設入所支援：100.26％　生活介護：101％）

2. 区分変更＝合計 16 名（区分５：２名　区分６：14 名）

共　　栄

平成２８年度
事　業　報　告

社会福祉法人北ひろしま福祉会

1．　共栄サービス別利用者状況

28年度	定　員	現　員	充　足　率
生活介護	80	81	101%
施設入所支援	80	79	99%
27年度			
生活介護	80	84	105%
施設入所支援	80	82	103%

（月別入退所状況）

28年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生活介護	入所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	退所	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	1	4
施設入所支援	入所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	退所	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	1	4
27年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生活介護	入所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
施設入所支援	入所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2．　援護実施期間別人員

実施機関	人員	実施機関	人員	実施機関	人員
（札幌市）		（道内市町村）		湧別町	1
白石区	2	苫小牧市	3	美瑛町	1
厚別区	3	江別市	2	東川町	1
豊平区	5	滝川市	2	むかわ町	1
東区	3	釧路市	2	栗山町	3
西区	1	赤平市	1	月形町	1
中央区	1	砂川市	1	浜中町	1
南区	2	小樽市	5	当別町	3
北区	4	旭川市	2	津別町	2
手稲区	2	恵庭市	1	長沼町	2
清田区	1	石狩市	1	由仁町	1
（道外）		帯広市	1	初山別村	1
大和市	1	北広島市	10	厚真町	1
鉾田市	1	和寒町	1	岩内町	1
北上市	1			合計	79

3． 年齢別利用者状況

28 年度									
性別/年齢	20～29	30～39	40～49	50～59	60 歳以上	合計	最高	最低	平均
男	0	6	11	18	6	41	67	31	49.9
女	1	0	9	16	12	38	83	26	56.9
合計	1	6	20	34	18	79			53.3
27 年度									
性別/年齢	20～29	30～39	40～49	50～59	60 歳以上	合計	最高	最低	平均
男	1	7	9	19	6	42	66	23	48.9
女	1	1	10	14	14	40	82	25	55.9
合計	2	8	19	33	20	82			52.3

4． 利用者障害状況

◎障害支援区分

28 年度							
	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
男	0	0	0	5	12	24	41
女	0	0	1	7	11	19	38
合計	0	0	1	12	23	43	79
27 年度							
	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
男	0	0	0	5	14	23	42
女	0	0	1	11	10	18	40
合計	0	0	1	16	24	41	82

◎身体障害（身障手帳等級）

28 年度							
	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	計
男	3	2	2	0	1	0	8
女	3	4	3	1	0	0	11
合計	6	6	5	1	1	0	19
27 年度							
	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	計
男	2	3	3	0	1	0	9
女	2	6	3	1	1	0	13
合計	4	9	6	1	2	0	22

◎障害の状況

	知的障害	脳性麻痺	四肢麻痺	体幹機能障害	てんかん	心疾患	難聴	統失症	全盲
男	41	6	3	4	20	1	2	1	1
女	38	8	7	4	14	1	1	4	0
合計	79	14	10	8	34	2	3	5	1

＊障害が重複している場合もあるため数字は延べ人数

5．　生活介護内容

［日中活動（固定活動）］

機能訓練	40名	健康・身体機能の維持を目指して、ストレッチ、マッサージ等の個別プログラムを提供。PT・STとの定期的な確認。機能訓練センターとの連携にて実施
軽作業	20名	請負作業、共栄館内の清掃業務を行うほか、売店の売り子などを通して〝働くこと〞を提供する活動。ホタテ貝の穿孔、リサイクル品分別、売り子
レクリエーション	全員	体力および健康維持のための中・長距離の屋外歩行、館内歩行、ストレッチ等を行うほか、カラオケや農作等趣味や生きがいに通じる内容を準備
実習(下膳)	3名	食事委託提供会社での食器下膳業務を行う。 業者との契約を行い実施としている。

＊基本的には所属ではなく選択制となります。特に機能訓練は、必要な方が個別の回数を受けていく形となります。

［日中活動（選択活動）］

種　目	内　　容
レクリエーション活動	ゲーム、散歩、カラオケ、農作、工作、創作、地域活動等を個人で選択
利用者企画活動	役員選挙、売店の運営、喫茶の企画、図書コーナー、各種催しの企画
サークル活動	ティーボール、勇太鼓
特別プログラム活動	個別支援計画に沿った活動
個別活動	ご本人やご家族の希望での外出等の企画実施

６．　主要行事

4月	消防訓練
5月	春の環境整備　利用者健康診断　緑の郷旅行(登別)　利用者企画(お楽しみ会)
6月	緑の郷旅行(登別)　脳波検査　前立腺がん検診　利用者企画(よさこい)
7月	施設開放事業　利用者企画(共栄夏祭り)
8月	職員企画花火大会(入所)　市民の郷祭り　利用者企画(七夕)
9月	職員健康診断　各種がん検診　消防訓練　利用者企画(秋の収穫祭)　緑の郷近郊旅行(小樽)　職員企画(合同コンサート)
10月	緑の郷近郊旅行(小樽)　秋の環境整備　利用者企画(ハロウィン)　利用者健康診断
11月	Tボール大会　インフルエンザ予防接種　職員企画(コンサート)　利用者企画(喫茶店)
12月	クリスマス会　施設開放事業　利用者企画(入浴)　職員企画(年越し企画)
1月	利用者企画(餅つき・入浴)　職員企画(室内コンサート)
2月	夜勤職員健康診断　利用者企画(豆まき)　職員企画(映画鑑賞会)
3月	利用者企画(役員選挙)
備考	

７．　地域貢献・その他

（１）ボランティア受け入れ状況

・行事ボランティア(市民の郷祭り・コンサート)
　一般、大学生、短大生、専門学校生、高校生

・裁縫補修ボランティア（1回／月）
　いいとも会

（２）ボランティア実施活動

・交通安全街頭啓発（秋）
・交通安全市民大会参加（お守り配布）
・赤い羽根共同募金街頭呼びかけ
・除雪ボランティア

（３）来初関係

【28年度】見学者、来所者　　個人：9名　団体：3団体（40名）
【27年度】見学者、来所者　　個人：6名　団体：1団体（16名）

（4） 研修・実習生受入（5校 6名）

【28年度】

専門学校北海道福祉大学校　1名

北海道文教大学　1名

天使大学看護栄養学部栄養学科　1名

札幌こども専門学校こども総合学科　1名

札幌大谷短期大学保育科　2名

【27年度】

研修・実習生受入（4校　5名）

専門学校北海道福祉大学校　1名

天使大学看護栄養学部栄養学科　1名

札幌こども専門学校こども総合学科　1名

北翔大学短期大学部こども学科　2名

（5） 地域生活支援

平成28年度			
短期入所	115名	利用延人数	220名
日中一時支援	12名	利用延日数	563日
平成27年度			
短期入所	110名	利用延人数	226名
日中一時支援	7名	利用延日数	487日

8．　28年度の事業の取り組み

1．人権の尊重と権利擁護を遵守する取り組み

・各職員が年度当初にたてた自身の目標を振り返り、自己評価を行っています。

・出勤ごとにその日の目標設定をし、退勤時に一日毎の自己評価を行っています。

・役職者会議、サービス向上会議、グループ会議を毎月行い、全職員が月に一度は権利擁護について検討する時間を設けていました。

・車いすベルト、ベッド柵使用等の身体拘束にあたる支援に関しては、ご家族への用途説明の上、同意書を交わしています。今年度は離床センサーの導入も行っており、行動監視の観点から同様の扱いとし使用を進めています。

・外部での研修に参加した者は、事業所内でのフィードバックに努め内部啓発を行いました。

・生活介護の"当日自己選択制"を行い、利用者の意思の汲み取りに重きを置きました。

【結果】

各職員の利用者への権利擁護の意識、意思の汲み取りの重要性、合理的配慮への高まりに繋がっています。

2．衣・食・住の基盤整備の推進

・“食事の大切さ”を継続し、食事環境の改善に取り組みました。
・食事アセスメントを深め、より個人に適した食事の在り方を追求していました。
・住環境の整備として“家庭的な雰囲気”を意識し、物品の設置や配置交換を実施しています。

【結果】
利用者個人にとっての“くつろぐ時間”“過ごしやすさ”“家”という考え方の浸透と、今後の方向性に繋がるものになっています。

3．人材育成の推進
・法人内スタンダード研修に加え、積極的な外部研修への職員派遣を実施しています。
（昨年度 40 名に対し今年度は 50 名を派遣）
・事業所内での各部門リーダーの配置、また、現場中心でのミーティングを実施し、各自で勉強会を行っています。

【結果】
外部研修への参加により、各職員の検討材料の拡大や振り返り、また、問題意識の発見に繋がっています。
グループごとでの自主的な勉強会の実施により、実状に則した問題解決への検討に繋がっています。

4．介護予防の推進
・各利用者担当職員が機能訓練センターと共にリハビリ計画書の作成を行っています。
・機能訓練専門員を中心に、利用者支援における介護予防・機能訓練の必要性を深め、事業所としての浸透を図っています。
・口腔衛生の必要性を重んじ、定期的な歯科衛生士の訪問によるデンタルチェックを継続しています。
・福祉用具の必要性を重んじ、各職員のメンテナンス力や導入に関しての検討に力を入れてきました。

【結果】
・高齢期にある利用者支援の在り方を見直し、改善につなげていける知識や技術の習得に繋がっています。

5．ライフサポートシステムに基づいた利用者支援
・利用者個人の意思を尊重できるよう、各場面においての利用者への伝え方や聞き取り方を検討しながら実践しました。
・これまでの支援に疑問を持ちながら、年齢層に合った支援の在り方を検討してきました。
・生活介護での選択制の在り方に検討を重ね、より利用者個人の意見が反映できる進め方を検討、実践してきました。
・利用者の特技や嗜好を活かせる活動を検討し、機会の提供を行ってきました。

（農作や園芸、創作によるみんなアートへの出展）

【結果】

利用者個人の“生き方”“よりよい生活”といった、その人らしい暮らしの提供への追及に繋がっています。

6．職員の腰痛対策の推進

・機能訓練センターとタイアップし器具や用具の検討を継続しています。

・国際福祉機器展へ職員を派遣し、導入物品の検討を継続しています。

・勤務配慮や業務配慮にて各職員の過剰な負担への軽減に努めてきました。

【結果】

器具・用具の導入には至っていませんが、継続した職員への啓発に繋がっています。

7．医療機関との連携

・入院・通院する利用者の合理的配慮へ繋がるよう、都度、医療機関に対して積極的な情報提供と配慮の要請を行ってきました。

・家族との意見交換を重ね、医療機関に家族の意向を適切に伝えることを実施してきました。

・医療機関、家族、施設が三位一体となって利用者をケアできるよう、医師や看護師とのカンファレンスを要請し実施しました。

【結果】

終末期を迎えていた利用者への最善の支援に繋がり、ご家族の思いにも応えることができました。また、今後、終末を迎える利用者への支援の在り方を検討していく為の課題発見に繋がっています。

8．地域移行の推進

・希望（要望）ある利用者へ積極的な支援を実施しました。

・ご家族への説明や見学を重ね、安心や信頼を得られる為の実践を継続してきました。

【結果】

ご本人の要望の通り、ご家族のご理解の元、1名の利用者の地域移行が成立しています。

9．防災対策の推進

・緊急時に備え、事業所としての連絡体制を確立させ独自の予行演習を実施しています。

・年間で2回の避難（消防）訓練と1回の非常食訓練を実施し、万が一に備えた演習を実施しています。

・現場職員からなる防災担当を配置し、現場目線でのリスクマネジメントの導入、啓発を実施しました。

【結果】

徐々に有事に備えた予防・対策の確立に繋がっています。今後も継続と検討を重ね、事業所レベルでの対応の確立に繋げたいと考えます。

１０．家族満足の推進

・ご家族とのコミュニケーションを意識し、各行事やイベントでのご家族対応を実践しています。
・住まいが遠方のご家族や身体的状況により来園が困難なご家族に対して、電話での連絡や相談を実施しています。
・利用者支援にご家族の思いを反映できるよう、施設側が歩み寄る姿勢を意識していました。
・ご家族からの問い合わせには迅速に対応することを実践しています。

【結果】

終末を迎えた利用者の最後の支援をご家族と協同して進めることができました。

北広島デイセンター

平成２８年度
事　業　報　告

社会福祉法人北ひろしま福祉会

平成28年度　事業報告：北広島デイセンター

平成28年度事業計画にある各項目ごとに評価分析を行った内容を以下のように報告します。

［単年度の事業展開の柱］

①北広島デイセンターを利用する全ての方の意思決定を支援できる専門性を追求、実践していきます。

⇒行事企画や日々の支援の中で、IPD等を利用して画像等をわかりやすく提示することにより、利用者が選択した外出起案の企画を一緒に立案したり、経験できる機会を提供することができました。

今後は、障がい特性に合わせてスケジュール伝達やコミュニケーション伝達を実践していきます

②利用者とご家族が喜んでいただけるような、「先進技術：ICT」を駆使したわかりやすい支援を充実させます。家族・本人・事業所のコミュニケーションツールとして、その機会を増やしていきます。

⇒面談の使用のみでなく、ご家族が医療機関に相談をする際にも利用できました。

また、利用者自身にも外出先などを選択できるツールとして利用できました。

今後は、スケジュールの伝達のみでなくコミュニケーションソフトを導入してICTを駆使していきます。

③作業・活動の体験できる場を増やして、主体的に選択できる場面が増えることにより利用者の自己実現・選択できる幅を増やしていきます。

⇒作業として、蜜蝋作成、有償除雪を展開しました。利用者個々の特性に合わせて、作業・活動を体験していく中で、利用者１人１人が活動や作業に対して目標に向かって取り組む姿勢が見られました。

　今後は、成人期の方の活動の中心を「はたらく」ことと考え、利用者それぞれの「はたらく」を見出せるプログラムを作っていきます。

［各項目］
〇生活介護
・４０名定員のところ、登録者数 56 名の利用者が利用していただきました。
・利用者個々のやりたいことや体験できることを形にして、4 半期ごとに活動を見直して
季節に応じた活動（プール、そり滑りなど）を展開してきました。
・作業として、蜜蝋作成・販売、有償除雪を経験できるように取り組みました。
・各活動室では、10 数名での単位で展開することにより利用者同士の仲間意識の向上が
見られ、各活動室ごとの取り組みや特色が見られました。
・総合体育館やコンビニ、行事の時に芸術文化ホールを利用して利用者と参加したり、
花壇活動で、「優良賞」をいただき、市の表彰式に参加してデイセンターのことを知ってもらえ
る機会が増えてきました。

〇就労継続支援 B 型
・20 名定員のところ、登録者数 25 名の利用者さんが利用していただきました。
・施設外就労を 2 ヶ所契約することができました。利用者さんの作業の種類を増やすことができ、
施設外就労を希望する利用者も増えました。
・利用者が作業の糧になれるように、作業種に沿った外出を企画して利用者に選択してもらい、
展開してきました。
・利用者同士の話し合いを設けて、意見を取り入れたレクリエーションを行いました。
準備を含めて利用者が主体的に動く機会ができてきました。
・有償除雪や、蜜蝋の対面販売などを行う中で、地域との関わりや「いんくる」のことを
知ってもらう機会が増えました。

〇食事
・利用者の嚥下・咀嚼に障害がある方にも、状況に合わせて提供して安全に取り組むことが
できました。
また、季節の食事を楽しんでもらうことができました。

〇送迎
・車両事故はありませんでした。引き続き安全運転を徹底するよう取り組みを強化していきます。
また、運転業務を専門の方に委託することで、支援員の送迎のリスク減少と支援時間の増加に
つながり、良い効果が継続しています。

［その他］
〇権利擁護・虐待防止を考える機会の工夫
・毎月、職員全体会議の場で担当者を決めて、研究したものを発表する方法をとっています。
〇事業所内研修の展開。
・計 9 回実施

○イベントの充実
・事業所全体として、約 60 個のイベントを企画してきました。
利用者の思いを形にしていく企画が多く、企画立案も利用者と一緒に行うことができました。

［年間スケジュール］

	生活介護	就労継続支援 B 型	共通
4 月	・入所式	・歓迎会	・前期個別支援計画書交付 ・事業所内研修「送迎」 ・新採用職員オリエンテーション「権利擁護」
5 月	・家族交流レク「環境整備」 ・行事：花見	・家族交流レク「環境整備」	
6 月	・体力づくり活動行事：「スーパーウォーキング」 ・調理活動		・事業所内研修「服薬研修」
7 月	・消防訓練 ・東部小との交流事業	・消防訓練 ・セレクト行事	・家族交流レク：野外ランチ ・事業所内研修「個別支援計画」
8 月	・地域クリーン活動行事		
9 月	・活動室外出	・味覚祭 ・セレクト行事	・後期個別支援計画書作成
10 月	・行事「大運動会」		・後期個別支援計画書交付 ・利用者健康診断
11 月	・活動行事「慰労会」 ・創作活動行事 ・調理活動	・慰労会 ・セレクト行事	・事業所内研修「感染症対策研修」
12 月	・家族交流レク「クリスマス会」	・家族交流レク「クリスマス会」 ・蜜蝋対面販売「ほっかいどうナイスハートフェア」に参加	・事業所内研修「セルプと合同送迎研修」 ・事業所内研修「発達障がい者への支援Ⅰ」
1 月	・行事：初詣 ・行事：新成人を祝う会	・行事：新年会	・事業所内研修「発達障がい者への支援Ⅱ」
2 月	・行事：節分 ・活動室外出	・避難訓練 ・セレクト行事	・事業所内研修「チーム力の向上」各活動室リーダー主催

3 月	・行事：おつかれさま会＆バイキング ・活動室外出		・次年度前期個別支援計画書作成

平成 28 年度　事業報告：北広島デイセンター　集計表

平成 29 年 3 月 31 日　現在

[利用者動向]

北広島デイセンター（生活介護）	定員	40名	現員	54	名
いんくる（就労継続支援Ｂ型）	定員	20名	現員	23	名

［月別入退所状況］

生活介護

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
退所	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0

いんくる

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0

［行政機関別人員］

生活介護（54名）

北広島市	24	白石区	9	清田区	8	豊平区	3
江別市	2	厚別区	8				

いんくる（23名）

北広島市	4	白石区	6	厚別区	4	北区	1
清田区	2	豊平区	1	北見市	1	苫小牧市	1
小樽市	1	恵庭市	1	千歳市	1		

［年齢別人員］

生活介護（54名）

～19歳	20～29歳	30～39歳	40歳～
3	26	16	9

いんくる（23名）

～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳
4	10	1	5	3

［障害程度区分別］

生活介護（54名）

区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1

26	18	10	0	0	0

いんくる（23 名）

区分 6	区分 5	区分 4	区分 3	区分 2	区分 1
2	10	7	2	2	0

［送迎利用状況］

・生活介護 54 名中 54 名が送迎利用。

・いんくる 23 名中 22 名が送迎利用。（1 名は自力通所）

生活介護（54 名）

A	B	B
44	0	0

いんくる（23 名）

A	B	B
14	8	1

［見学件数］

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
0	0	4	7	0	1	1	0	0	1	0	1	15

＊見学者：札幌養護学校・新篠津高等養護学校・南幌養護学校・チャレンジキャンパスさっぽろ
厚田はまなすの会　等

［実習受け入れ］

	ソーシャルワーク実習	介護等体験	保育実習	その他
北星大学社会福祉学部	1	0	0	0
北翔短期大学	0	0	4	0
北海道福祉大学校	0	0	2	0
北海道保育専門学校	0	0	1	0
札幌国際短期大学	0	0	1	0

北広島セルプ

平成２８年度
事　業　報　告

社会福祉法人北ひろしま福祉会

北広島セルプ事業報告

【２８年度事業所スローガン】～「明日も行きたくなる職場」

このことを目標に掲げ１年間事業を遂行して来ました。

このスローガンの中には、ここを利用されている利用者のみならず、利用を前提とした高等養護学校や地域からの実習者、専門学校や短大、大学生の単位取得実習者、福祉施設体験実習者、さらにはここに働く職員が「明日も来たくなる」そんな魅力ある職場環境を目指す思いから掲げました。

結果、契約者数は前年度比同数ではありましたが、新規にご利用される方の精神的な事由による長期の欠席が多く、作業種を増加させたにもかかわらず稼働率はＢ型で４％、移行で14%の減、工賃においても基準とする北海道の平均工賃を下回ったことは次年度以降への課題となりました。

このような中でも、企業等への就職を前年度同数の２名送り出すことができ、離職することなく継続雇用となっていることは、私たち支援者としても嬉しいことであり本人たちの努力の結果でもあります。

○就労継続支援Ｂ型事業

①施設外就労の新規展開

利用者工賃の向上と異なる就労環境から発生する就労意欲の向上を目的として、農業と福祉の連携の下、２か所の農業法人と委託契約を締結し就労に従事することができました。

工賃の向上や就労意欲の向上にも繋がっており、今後も継続して実施して行きます。

②利用者のグループ編成

障がい特性や作業習熟度に合わせ「就労グループ」と「訓練グループ」の２つのサービス提供を実施することにより、より個人の持つ強みを生かした効果的な支援を提供することができ就職に結びつけることもできました。また、今後の高齢化対応の参考にも繋がりました。

③利用者様の高齢化と重度化対応

利用者様の高齢化に伴って、新たに生活介護事業の立上げを検討しましたが、職員配置基準などの基準クリアや費用対効果の面から今年度は検討するのみに終わらせ、次年度以降の報酬改定を考慮しながら検討を加えて行くこととしました。

④取引企業と作業内容の調整

業務受注に関して、①利用者が出来るものであること。②工賃が下がらないこと。③自助具の導入など就労環境調整で出来るものであること。など総合的な視点から新規受注や現行業務の洗い出しを行い、働きやすい環境に向けた改善に努めました。

○就労移行支援事業

①就労移行支援事業のサービスの充実

利用者様の習熟度別の作業グループを編成し、座学と実践訓練を通して一般就労に向けた社会性や労働習慣の向上など基本的な獲得支援を実施してきました。

また、北海道労働局の実習制度と施設外支援の併用により、雇用を前提とした１名の企業実習を実施しましたが、残念ながら基本的労働習慣の不足から雇用には至りませんでした。

就職後の雇用安定を目的とした私的契約は、１名が締結となり契約に基づいた定期的な訪問等で安定雇用に繋げることができました。

②事業所の新規利用者様獲得ＰＲ促進

新規利用者様の獲得に向け、相談支援事業所への情報提供や高等養護学校の夏休みを利用した作業体験会と冬休みの見学会を実施し、事業所の理解促進に努めました。また、ライフサポートセンターと共同して学校訪問を行い、事業内容の説明を行い新規利用者様の利用促進活動を行ってきました。高等養護から新卒者２名の利用に繋がりました。

１．利用者様動向

セルプ（就労継続支援Ｂ型）　定員５４名　→　現員６６名（充足率 122%）

ガンバ（就労移行支援）　定員　６名　→　現員　６名（充足率 100%）

○障がい種別

	Ｂ型	移行
療育手帳	64 名（うち重度 26）	6 名（うち重度 2）
精神保健手帳	１名	
身障手帳	５名（うち重度 2）	
手帳なし	１名	

＊複数所持されている方の重複掲載をしています。

○月別入退所状況

セルプ　（人）

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計
入所	3	0	0	0	1	0	0	1	2	0	0	0	7
退所	1	2	0	1	0	1	1	0	2	0	0	0	8

ガンバ

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計
入所	1	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	7
退所	3	0	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	7

２．稼働状況（平均）

セルプ

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計
稼働人員	1402	1355	1343	1367	1339	1310	1304	1311	1340	1308	1217	1356	13592
稼働率	118.0	109.1	113.0	110.0	107.8	110.2	104.9	110.3	107.8	105.3	112.6	109.1	109.8

ガンバ

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計
稼働人員	89	117	115	119	123	124	126	122	112	111	100	115	1373
稼働率	67.4	84.7	87.1	86.2	89.1	93.9	91.3	92.4	81.1	80.4	83.3	83.3	85.0

4．年代別人員

セルプ

	18～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60 歳～	計
男	1	13	8	17	6	8	53
女	0	5	4	0	3	1	13
計	1	18	12	17	9	9	66

ガンバ

	18～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60 歳～	計
男	1	4	0	0	0	0	5
女	0	0	0	1	0	0	1
計	1	4	0	1	0	0	6

5．行政機関別利用人数

セルプ

	男	女		男	女		男	女		男	女
北広島市	25	7	北区	1	1	小樽市	1	1	栗山町	1	1
厚別区	5	0	東区	2	0	夕張市	1	0	七飯町	1	0
白石区	2	1	江別市	4	0	深川市	1	0	川崎市	1	0
清田区	2	0	恵庭市	3	0	歌志内市	0	1			
中央区	1	1	石狩市	1	0	長沼町	1	0			

ガンバ

	男	女		男	女
北広島市	2	1	白石区	1	0
厚別区	1	0	恵庭市	1	0

6．施設車両による送迎

セルプ、ガンバ共通

	市内巡回	北郷	輪厚	清田	大曲	団地	江別・市内	厚別	西の里	月寒
男	2	1	5	1	1	2	3	2	2	1
女	2	0	1	0	0	2	1	2	0	0
計	4	1	6	1	1	4	4	4	2	1

7．作業提供内容

セルプ、ガンバ共通

作業種別	作業内容
ホタテ部門	ホタテ貝殻１次および２次加工作業

紙器加工・軽作業部門	箱折り、組仕切り、タオルたたみ、しめ飾り販売、簡易トイレ・エコロジパコ販売ほか
リサイクル部門	キャップ選別、フィルム剥がし、市内古紙回収ほか
委託清掃部門	共栄食堂、ｸﾞﾘｰﾝﾊﾟｰｸ北ひろ居住共有スペース、ハーモニー共有部
就労移行部門	上記の作業の他、企業実習、就労・生活スキルアップ講習ほか

8．就職実績

性別	所属	雇用開始日	就業内容	雇用身分	現在の状況
男	B型	H28/4/1	弁当製造	パート	雇用継続中
男	B型	H28/12/1	金物袋詰め	パート兼A型利用者	雇用継続中

9．企業実習実績

性別	所属	実施月	就業内容	利用制度	現在の状況
男	移行	H28/4/1	車両清掃	北海道労働局障害者企業実習	B型再訓練

10．養護学校実習受入

	性別	実習期間	学校名	学年	実習種別	利用締結
1	男	H28/6/27～7/8	南幌養護学校高等部	3	前提実習	○
2	男	H28/8/1～8/3	新篠津高等養護学校	2	私的体験実習	
3	男	H28/8/8～8/9	新篠津高等養護学校	2	私的体験実習	
4	男	H28/8/9	千歳高等支援学校	1	私的体験実習	
5	女	H28/8/29～9/2	札幌視覚支援学校	2	現場実習	
6	男	H28/10/17～10/21	札幌養護学校高等部	2	現場実習	
7	男	H28/9/5～9/16	千歳高等支援学校	2	現場実習	
8	男	H28/9/26～9/30	札幌高等養護学校	3	前提実習	○
9	男	H28/10/3～10/7	札幌養護学校高等部	2	現場実習	
10	男	H29/1/12	小樽高等支援学校	1	私的体験実習	
11	男	H29/2/6～2/10	札幌養護学校高等部	2	現場実習	

11．社会福祉士・保育・介護実習等

	性別	実習期間	実習種別	学校名・所属
1	男	H28/6/20～7/21	社会福祉士相談援助実習	道都大
2	男	H28/10/3	北広島市職員民間派遣研修	北広島市役所
3	男	H28/10/3	北広島市職員民間派遣研修	北広島市役所
4	男	H28/11/7	北広島市職員民間派遣研修	北広島市消防
5	男	H28/11/7	北広島市職員民間派遣研修	北広島市消防
6	女	H28/10/17～28	保育実習	北翔大学短大

7	女	H28/10/17～28	保育実習	北翔大学短大
8	女	H28/10/31～11/11	保育実習	北翔大学短大
9	女	H28/12/6	市民後見人養成講座　地域実習	北広島市社協
10	女	H28/12/6	市民後見人養成講座　地域実習	北広島市社協
11	女	H29/2/6～10	相談援助入門実習	北星学園大学
12	女	H29/2/20～3/3	保育実習	札幌こども専門学校

12．職員派遣研修

	派遣日	研修名	派遣人数	開催場所
1	H28/5	道央施設長研修	1	北広島市
2	H28/6/1	ＪＣ推進協議会	1	札幌市
3	H28/9/8	ＪＣ推進協議会	1	札幌市
4	H28/11/5～11/13	海外研修	1	豪州
5	H28/11/12	社会福祉実習セミナー	1	札幌市
6	H28/12/3	４法人合同個別支援研修	2	恵庭市
7	H28/12/3	おがる発達支援講座	1	石狩市
8	H28/12/17	社会福祉実習セミナー	1	札幌市
9	H29/1/28	おがる発達支援講座	1	石狩市
10	H29/2/1	農福連携シンポジュウム	1	札幌市
11	H29/2/16	道央施設長会議	1	北広島市
12	H29/2/20.21	全道施設長研修	1	札幌市
13	H29/3/4	療育園主催実践報告会	1	旭川市
14	H29/3/4	４法人合同個別支援研修	2	札幌市
15	H29/3/6	ＪＣ推進協議会	1	札幌市

13．会議関係

職員会議(ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ含)　毎月１回
役職者会議　毎月１回
虐待･人権侵害会議　毎月１回
部門別会議　案件の都度

3．売上表

	紙器作業部門	古紙作業部門	リサイクル部門	清掃作業部門	エコロジバコ部門	ホタテ穿孔部門	施設外就労部門	しめ飾り	28年売上	目標売上	達成率	工賃
4月	313,449	33,220	26,186	55,850	315,362	0	398,808	0	1,142,875	685,300	166.77%	873,275
5月	351,464	14,770	52,890	55,850	22,522	440,000	433,878	0	1,371,374	450,300	304.55%	879,283
6月	247,928	30,000	8,700	55,850	690	521,478	263,153	0	1,127,799	995,300	113.31%	803,425
7月	384,846	30,000	16,000	55,850	45,036	0	252,432	0	784,164	580,300	135.13%	795,050
8月	361,558	26,530	16,739	55,850	38,850	0	309,178	0	808,705	500,300	161.64%	785,575
9月	381,185	69,170	15,296	55,850	176,250	0	381,077	0	1,078,828	985,300	109.49%	827,350
10月	303,159	40,700	7,150	55,850	618,624	406,080	68,400	0	1,499,963	560,300	267.71%	695,275
11月	281,752	43,950	1,950	52,700	0	1,134,000	89,600	0	1,603,952	830,300	193.18%	736,325
12月	271,756	39,360	18,440	52,700	19,368	446,688	0	1,661,450	2,509,762	2,190,300	114.59%	679,800
1月	112,791	25,220	15,350	52,700	58,840	0	0	0	264,901	305,300	86.77%	649,425
2月	155,171	36,930	15,600	52,700	5,744	0	0	0	266,145	315,300	84.41%	626,851
3月	216,538	39,339	15,600	52,700	21,113	583,988	271,984		1,201,262	855,530	140.41%	826,761
合計	3,381,597	429,189	209,901	654,450	1,322,399	3,532,234	2,468,510	1,661,450	13,659,730	9,253,830	147.61%	9,178,395

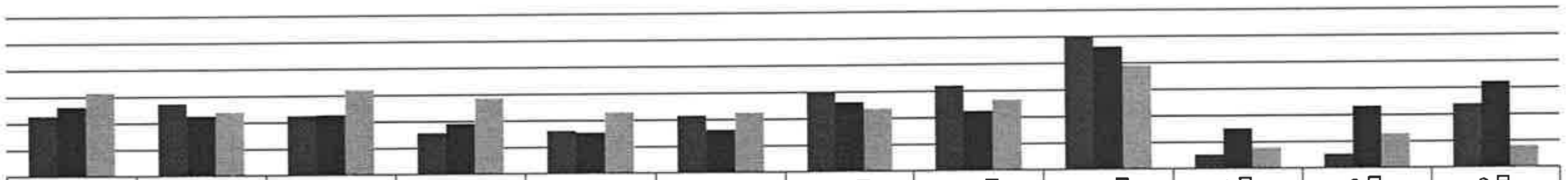
工賃支給額　　平均工賃　12,454

	就労継続B型	就労移行	合計
4月	826,000	47,275	873,275
5月	802,208	77,075	879,283
6月	721,075	82,350	803,425
7月	717,350	77,700	795,050
8月	698,475	87,100	785,575
9月	730,450	96,900	827,350
10月	617,050	78,225	695,275
11月	677,425	58,900	736,325
12月	627,250	52,550	679,800
1月	604,950	44,475	649,425
2月	578,376	48,475	626,851
3月	732,048	94,713	826,761
	8,332,657	845,738	9,178,395

売上比較

	平成28年度	平成27年度	平成26年度
4月	1,142,875	1,314,129	1,582,075
5月	1,371,374	1,134,219	1,201,069
6月	1,127,799	1,141,192	1,608,912
7月	784,164	954,101	1,432,682
8月	808,705	771,577	1,156,135
9月	1,078,828	810,031	1,126,941
10月	1,499,963	1,311,060	1,179,961
11月	1,603,952	1,128,735	1,334,078
12月	2,509,762	2,312,134	1,953,948
1月	264,901	753,894	394,153
2月	266,145	1,167,026	640,531
3月	1,201,262	1,610,607	398,249
	13,659,730	14,408,705	14,008,734

売上比較表



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
■ 平成28年度	1,142,875	1,371,374	1,127,799	784,164	808,705	1,078,828	1,499,963	1,603,952	2,509,762	264,901	266,145	1,201,262
■ 平成27年度	1,314,129	1,134,219	1,141,192	954,101	771,577	810,031	1,311,060	1,128,735	2,312,134	753,894	1,167,026	1,610,607
■ 平成26年度	1,582,075	1,201,069	1,608,912	1,432,682	1,156,135	1,126,941	1,179,961	1,334,078	1,953,948	394,153	640,531	398,249

就労センタージョブ

平成２８年度
事　業　報　告

社会福祉法人北ひろしま福祉会

平成２８年度　事業報告　就労センタージョブ

≪平成28年度の取り組み状況≫
◎研修などで人権についての勉強を行い、虐待防止など人権擁護に努めました。
◎あぐり本店は２９年１月に閉店し、本店機能はジョブ本体とふゅーるへ移管しました。
◎就労移行については各講習の充実を図ったものの一般就労は１名に留まりました。
◎利用者の将来設計に関与を深めるように懇談時にグループホームへの入所を勧め結果を出すことができました。
◎LSCと連携し高等養護学校への営業活動は積極的に行ったものの新卒者の確保は２名でした。
◎出席率向上に向け取り組みを展開しましたが、長期欠席者が２名いたため全体の稼働率は目標の１１０％に届かず１０４％にとどまりました。
◎ジョブ全体でのレクリエーションは夏に１回、また、それぞれのセクションでも年末年始に実施することができました。

１．利用者動向

就労移行支援	＜ステップ＞	定員１０名	→	現員１０名	（充足率１００％）
就労継続支援Ｂ型	＜ヒロパン＞	定員１０名	→	現員１３名	（充足率１３０％）
就労継続支援Ｂ型	＜あぐり＞	定員１０名	→	現員１２名	（充足率１２０％）
就労継続支援Ｂ型	＜まんぞく屋＞	定員１０名	→	現員１２名	（充足率１２０％）

（新規利用者内訳）４月１日入所
新篠津高等養護学校　１名

（中途入所利用者内訳）
４月　就労継続Ａ型　１名
１１月　一般就労　１名

（退所者内訳）
５月　就労継続Ｂ型　１名
５月　一般就労　１名
７月　就労継続Ｂ型　１名
８月　就労移行支援　１名
９月　私的理由（長期入院）　１名

2．行政機関別人員

＜ステップ＞　　１０名

	女		男	女		女		男
北広島市	4	札幌市	1	2	南幌町	1	江別市	1
	男							
千歳市	1							

＜ヒロパン＞　　１３名

	男	女		男		女		女
北広島市	4	6	札幌市	1	苫小牧市	1	長沼町	1

＜あぐり＞　　１２名

	男	女		男	女
北広島市	6	2	札幌市	1	3

＜まんぞく屋＞　１２名

	男	女		男		女		女
北広島市	2	2	札幌市	2	砂川市	1	石狩市	1
岩見沢市	2		新ひだか町	1	千歳市	1		

3．出勤契約状況

	週１日	週２日	週３日	週４日
ヒロパン			2	
あぐり			1	1
まんぞく屋				1

（長期欠席者）

ヒロパン	1
あぐり	1

4．年齢別人員　　＊ジョブ全体平均　男 30.3 歳　　女 30.6 歳　　全体 30.5 歳でした。

＜ステップ＞

年齢	18～19	20～29	30～39	40～49	50～	最高齢	最低齢	平均
男		3				２２	２１	２１．３
女		6		1		４３	２０	２４．２

＜ヒロパン＞

年齢	18～19	20～29	30～39	40～49	50～	最高齢	最低齢	平均
男		3	1		1	６０	２２	３３．８
女		3	2	2	1	５４	２０	３６．３

＜あぐり＞

年齢	18～19	20～29	30～39	40～49	50～	最高齢	最低齢	平均
男		3	4			３８	２１	３０．４
女		2	3			３９	２３	３１．２

＜まんぞく屋＞

年齢	18～19	20～29	30～39	40～49	50～	最高齢	最低齢	平均
男		5		1	1	５８	２１	３１．４
女		3	1	1		４７	２１	３０．０

５．工賃状況　　＊ジョブ全体平均　２２，９９６円　　２３７円

・ステップ　　月平均　２０，３６８円　　　時給平均　　１９３円
・ヒロパン　　月平均　２７，５７０円　　　時給平均　　２７３円
・あぐり　　　月平均　２１，３９３円　　　時給平均　　２０４円
・まんぞく屋　月平均　２２，２２８円　　　時給平均　　２６７円

＊月平均工賃については休みの多い利用者さんが多かったため昨年を下回りましたが、時給平均では十分上回りました。

６．一般就労状況　　＜一般就労＞　　１名　　ヤマト運輸

＊就労移行事業を始めてから最低の一般就労が１名という残念な結果になりました。就労に対し少し慎重になりすぎたとの反省が残りました。

７．就労事業状況

	利用者人数	就労内容
ステップ	男３名　女７名	パンの製造、弁当の製造、一般就労向け講習
ヒロパン	男５名　女８名	パン・ケーキ等の製造・販売・卸
あぐり	男７名　女５名	パン・ケーキ等販売、喫茶、福祉ショップ販売業務
まんぞく屋	男６名　女６名	利用者昼食・弁当製造・販売、レストラン業務、食材配送

① ヒロパン納品先（施設関係等）　　販売額合計　54,800,000円　　対予算　+2,800,000円

・共栄　・とみがおか　・北広島デイセンター　・まんぞく屋　・ハビタットのっぽろ
・江別緑志苑　・天使の園　・向陽学院　・札幌養護学校　・北広島リハビリーセンター
・グリーンホーム厚別　・ワークショップ上野幌　・北広島市内学童クラブ１０箇所
・北広島市学校給食センター　・大曲はだかんぼ保育園　・東共栄はだかんぼ保育園
・大谷むつみ保育園　・あおぞら保育園　・北広島市立保育園３箇所（すみれ、すずらん、稲穂）
・西の里きらきら保育園　・江別ときめいく　・ホクレンくるるの杜　・見方
・輪厚パーキングエリア売店　・東部緑の苑　・地域サポートセンターみなみ
・立命館慶祥高校購買　・北広島西高校購買　・大地太陽幼稚園

② あぐり店舗状況（４店舗）　　販売額合計　19,430,000 円　　対予算　—3,070,000 円

店舗名	場所	営業日・営業時間
あぐり本店	美沢３丁目１３－２　正栄ビル	平成２９年１月閉店
福祉ショップ　ふゅーる	北広島駅　エルフィンパーク	月曜日～土曜日　10:00～16:00
シンフォニー	大曲　夢プラザ内	火曜日～土曜日　10:30～15:30
図書館販売所	花ホール　市立図書館前	火曜日～土曜日　10:00～1500

③ あぐり外部販売先

・法人内職員（各職員室）　・北広島市役所　・北広島市教育委員会　・ミツウロコ
・北広島高校職員室　・共栄分校職員室　・白樺高等養護学校職員室　・ＪＡ道央
・社会福祉協議会　・聖芳苑職員室　・北広島総合体育館　・ホクリヨウ　・悠々
・野幌郵便局　・北広島自動車学校　・ライフドリーム　・ケアハウス北広島

④ まんぞく屋弁当等納品先　　販売額合計　69,760,000 円　　対予算　—240,000 円

・ジョブ利用者弁当　・北広島デイセンター利用者弁当　・セルプ利用者弁当　・ヴェール
・外部日替弁当（市役所、緑ヶ丘内科、飛鳥動物病院、支援センターみらい、つむら、あいあい、南空知リサイクルパーク、プラトーケア北広島、緑のアトリエ、北の風、法人職員他）
・外部特注弁当（市内各学童クラブ、市内各町内会、市役所、各種催し・会議他）
・グループホーム食材配送　・ケアホーム食材配送　・福祉ホーム朝夕食配送

⑤ レストラングリーンパーク　　（販売額合計　1,880,000 円）

・営業日：月曜日～土曜日　・営業時間：11:30～14:30　・座席数　３２席
・各種宴会　・貸切対応

⑥ クマゲラ

・クマゲラ売店（入所利用者向　共栄会議室横）
・日用品販売（法人内各施設利用者向）
・事務用品販売（法人内各施設）

資料　１－２

平成２８年度
事　業　報　告

社会福祉法人北ひろしま福祉会

平成２９年　６月２４日

グリーンパーク北ひろ

平成２８年度

事　業　報　告

社会福祉法人北ひろしま福祉会

<事業活動報告>

1. 生活支援

利用者各個々人に合わせた居住環境を提供すると共に、個別支援計画を通して当法人ライフサポートシステム(“5つの大切”、“知る”、“コーディネート”)に基づいて専門性を高めるべくアセスメント結果を根拠に支援内容を選択し、利用者の意向や希望に合わせた支援を継続して行ってきました。

2. 就労支援

当法人私的サービス(就労定着支援)の契約をされた方を対象に、職場定着と働きやすい環境づくりの為、契約に基づく頻度にて職場訪問を実施しました。契約されている32名の利用者へ定期的な職場訪問を実施し、今年度は月平均で約11件(計137件)利用者・企業から聴き取った不安や不満等に都度対応し、就労の継続に繋げることができました。しかし、利用者1名より退職の希望が聞かれ、ご本人との面談の中から仕事内容に対する不安や不満を聴き取り、企業と就労継続に向け話し合う機会を設け、その話し合いの中でご本人の退職への強い希望が聴かれたこともあり、12年務めた会社を離職する形となりました。

3. 財産管理

各利用者の預貯金などの財産や重要書類等の管理保管支援を、個人の管理能力と状況に合わせて実施しました。成年後見制度による管理等の社会資源に於いても情報提供し、今年度は成年後見制度の手続き中の利用者が1名おりました(平成29年3月31日現在)。今後、ご家族の高齢化や高額預金者の財産管理について、成年後見制度利用等の検討が必要と思われます。

4. 当事者活動支援

当事者活動部門が中心となり、“北広島　みんなの会”(以下みんなの会)に対して自主性と主体性(エンパワメント)を尊重しながら、①役員会活動の補助、②レクレーション企画・実施補助③他地域の当事者団体との交流会企画補助、④地域活動参加補助等の支援を行ってきました。今年度も自主性に着目し、各役員に役割を持っていただき、上記支援を取組んでおりましたが、職員による補助が必要な場面が多く見られておりました。みんなの会役員・会員の高齢化や支援の介入度合いの高い方が多いという現状もあり、自主性と主体性をどの様に支援し、高められるか、その取組み方について検討を行っていく必要があります。

5. 健康管理・医療体制

利用者の平均年齢が 43.5 歳(前年度比+1.4 歳)となり、利用者様の 7 割は何かしらの疾病を抱えており、定期の通院をされております。その状況の中でも安心して地域生活が送れるよう①　通院引率と治療内容や所見等の確認、②疾病(糖尿病、腎臓病、高血圧症等)を抱えている方や高齢者に合わせた食事の提供、③診療内容や所見等の健康診断やドック健診の情報提供と実施④口腔内の健康維持促進や生活習慣病の治療のため、医療機関との協力体制の構築の支援を実施しておりました。看護師資格を持つ職員を生活支援員として配置したことで、より専門性を必要とする診断・治療内容を正確に把握し、事業所内での情報の共有、適切且つ統一した支援の実施に繋げることができました。

6．防災・防犯対応

今年度は事業所内自主避難訓練を実施することができておりませんでしたが、災害時に使用するジェネレーターのマニュアルを作成し、平成 28 年 6 月 30 日の職員会議にて実演も含めたレクチャーを実施し、理解促進を行いました。同年 7 月に各居室の避難動線上にある家具の配置について検証し、地震の際に転倒の恐れのある家具の配置や避難路を塞ぐ物を置いている方への配置換えを行い、各ホームでのミーティングにて全体への注意喚起を行いました。また、平成 28 年 8 月 18 日の台風 7 号による輪厚川の水位上昇の際、職員配置や動きをホワイトボードにて視覚化した取組みをもとに、避難誘導を行う職員の配置、送迎等についての検証を行いました。

上記以外にも、①グループホーム避難訓練・通報訓練の実施（年 2 回　火災、地震想定で実施）②事業所内防災講座の開催（消火訓練、自然災害)、④事業所内安否確認システムの発動、⑤北広島市主催の DIG 講習会への参加等が挙げられます。

7．短期入所

グループホームの新規利用開始に向けて、利用者の状態の分析をさせていただく貴重な機会になっており、グループホーム利用後の円滑な支援提供に繋がっていました。また、入所施設から地域への移行増加やご家族の高齢化が進んでいる状況もあり、家族亡き後の生活の場として今後、グループホームの利用が一層増加することが想定されており、短期入所の利用ニーズの増加に合わせ、利用者の状態の分析を適切に実施できるよう支援体制を整えていきます。

平成 28 年度短期入所利用率　男性：65.0%(前年度比-3.2%)　女性：32.9%(前年度比+12.4%)
平成 28 年度短期入所から新規利用への実績数：9 名(新規利用者 12 名中)

8. 地域活動

各ホームが所在する町内会で実施された市内一斉清掃や花壇整理、野外食事会、祭り等の行事に参加し、会場設営に必要なテント、焼き台等の貸出し、設置等の対応も行ってきました。
共栄町内会の総会の中で役員の方より、「グループホームを利用されている方は、積極的に一斉清掃や花壇整理に参加されていました」との報告をいただき、行事等への積極的な参加は、地域との関係構築を進める上で重要な取組みであると改めて感じました。また、各町内会の回覧板に事業所広報誌を入れさせていただき、利用者の状況や事業所の事業内容に関する理解促進の機会となっておりました。

9. 個別支援計画運営に関する会議・研修

月に1度の定例職員会議を“個別支援計画（原案策定・モニタリング）会議”とし、情報の共有する機会の他、個別支援計画の策定やモニタリングをサービス管理責任者と協議・検討する場にしました。また、役職者会議（所長から副主任が対象）を月に2回（月初めと月末）実施しています。

支援スタッフに於いては、月例のスタッフ会議を設け、情報の共有と支援内容の確認、支援力の向上の為の講習会を年4回(虐待・人権侵害防止、世話人業務、消火・救急救命訓練、感染症予防)事業所で行いました。

10. 生活講座

地域社会での生活の質と幅を広げる事を目的に、各関係機関を講師に招き、講座という形で学習する機会を設け、今年度は5回の講座（春・冬の交通安全、性、マナー、栄養）を実施しました。終了後のアンケートでは、「普段から身に付けている事なのですが、今回の講座で少し見直すことが出来ました。」(マナー)、「野菜を食べることをつづけて、バランスのいい食事のことがわかった。」(栄養)等の感想が聞かれていました(5回中4回アンケートの回収率100%、平均アンケート回収率84.7%)。

11. 権利擁護・虐待防止に関する取組

今年度も、虐待防止・権利擁護部門を中心に四半期毎にPDCAサイクルで計画的に活動内容を進めてきました。奇数月に“虐待防止・人権侵害ゼロ会議”を実施し、事業所の活動内容のモニタリングを通し、事業所全体で虐待について振り返り、考え、不適切な支援を防ぐ機会となっておりました。また、今年度はアンケートを用いて不適切支援を意識していくことを目的に“グレーゾーン支援ゼロに向けたアンケート”を実施し、アンケートをもとにグループワークを行い支援内容を振り返る機会を設けました。アンケートの中で自己評価・事業所評価がゼロになった項目の削除を行っていき、年度当初18項目あったグレーゾーン支援が12項目まで減らすことができました。月に一度、各利用者に対して虐待に関する有無の確認を実践し、利用者に“虐待とは何か”、“虐待に気付く”等のエンパワメントを高める事、利用者各個々人の障がいに合わせた聴き取りの実施を目的に、事業所で作成した虐待防止ＤＶＤやピクトグラム等のツールを聴き取りの際に活用し、より正確な聴き取りに繋げることができておりました。

12. 事業所広報誌発行

今年度も引き続き、事業所広報誌担当を中心に事業所広報誌を作成し、四半期毎に季刊誌として発行しました。ご家族や就労先、各ホームが所在する町内会の回覧板を利用し、各ホームのイベントの様子や当事者会イベント、生活講座等、事業所の取組みについて伝える機会となっておりました。

13. 交通安全に関する取組

毎日の情報共有の場で季節や天候、路面状況等に合わせた注意喚起を行い、冬期間は規制速度マイナス 10㎞/h で走行する等の交通安全への取組みを行い、今年度も事故はありませんでしたが、車両の破損や傷が引き続き多くみられていたため、公用車を使用する際の扱い方、意識、報告の必要性について、伝える機会を定期的に設け、改善に繋げます。

<平均区分・年齢・平均入居期間>

平均区分	平均年齢	平均入居期間
3.1	43.5 歳	4 年 10 か月

<利用状況>

共同生活援助利用者数(月別入退居状況)

期末人数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
100名	入居				1			1	1				1	3
	退居			1			1	1						3

<年齢別人員構成>

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
男 性		16	24	17	18	10		1	86
女 性		2	6	2	3	1			14
合計	0	18	30	19	21	11	0	1	100

<関係機関別人員>

関係機関	男	女	関係機関	男	女	関係機関	男	女
北広島市	23	2	川崎市	1		白老町	1	
江別市	3		岩見沢市	2		七飯町	1	
恵庭市	4	1	砂川市		2	南幌町	1	
千歳市	1		深川市	2		長沼町	1	
石狩市	2	1	歌志内市		1	栗山町	1	1
札幌市　中央区	2		夕張市	2		むかわ町	2	
北区	2	1	苫小牧市	2	1	新ひだか町	2	
白石区	4		函館市	1		浦河町	1	
東区	1	2	釧路市	2		羅臼町	1	
西区	2		北見市	2		津別町		
厚別区	7		網走市	1		東京都府中市	1	
清田区	1	1	稚内市	1				
豊平区	1		留萌市	1				
小樽市	3	1	室蘭市	1		合計：32 市町村		

<就職先等業種別等人員>

業　種	男性	女性	合　計
一般企業	33	5	38
就労移行支援事業所	1	0	1
就労継続支援 B 型事業所	42	9	51
就労継続支援 A 型事業所	4	1	5
生　活　介　護	2	0	2
そ　の　他	3	0	3
合　計	85	15	100

※就労継続支援 B 型と一般就労の併用：1 名(女性 1 名)

※無職：3 名(男性 3 名)

・一般就労～37.6%（38 名）

・福祉的就労～57.4%（58 名）

・その他（無職、生活介護）～5%（5 名）

<月別活動状況>

月	活　動　内　容	場　所
4月	消防設備点検	各ホーム
	生活講座（交通安全）	北広島自動車学校
	みんなの会（当事者会役員会）	グリーンパーク北ひろ
	各ホームイベント（市内飲食店・各ホーム内）	各ホーム
	入居者ミーティング	各ホーム
5月	市内一斉清掃	各町内会単位
	みんなの会（当事者会役員会）	グリーンパーク北ひろ
	事業所主催イベント(食事・ビンゴ大会)	グリーンパーク北ひろ
	みんなの会イベント（ボウリング外出）	市外複合遊技場
	各ホームイベント（市内飲食店・各ホーム内）	各ホーム
	入居者ミーティング	各ホーム
6月	市内町内会花壇整理.・イベント	各町内会単位
	当事者会交流会（千歳星の会）	円山動物園
	消防避難訓練（火災想定）	各ホーム
	生活講座（性講座）	中央公民館
	事業所広報誌発行	ご家族・事業所・町内会
	みんなの会（当事者会役員会）	グリーンパーク北ひろ
	各ホームイベント（市内飲食店・各ホーム内）	各ホーム
	入居者ミーティング	各ホーム
7月	みんなの会イベント（市民の郷祭り出店シミュレーション）	グリーンパーク北ひろ
	みんなの会（当事者会役員会）	グリーンパーク北ひろ
	各ホームイベント（市内飲食店・各ホーム内）	各ホーム
	入居者ミーティング	各ホーム
8月	生活講座（マナー）	中央公民館
	市内町内会夏祭り・盆踊り	各町内会単位
	市民の郷祭り	法人入所施設敷地内
	町内会花壇整理	親和町内会
	みんなの会（当事者会役員会）	グリーンパーク北ひろ
	各ホームイベント（市内飲食店・各ホーム内）	各ホーム
	入居者ミーティング	各ホーム
9月	みんなの会（当事者会役員会）	グリーンパーク北ひろ
	市内町内会清掃・花壇整理	各町内会単位
	みんなの会イベント（市民の郷祭り打ち上げ）	市内飲食店
	各ホームイベント（市内飲食店・各ホーム内）	各ホーム
	入居者ミーティング	各ホーム

月	活 動 内 容	場 所
10 月	みんなアート出店 消防設備点検 全道知的障がい者ボウリング大会 事業所広報誌発行 各ホームイベント（市内飲食店・各ホーム内） 入居者ミーティング	かでる展示ホール 各ホーム 小樽市ボウリング場 ご家族・事業所・町内会 各ホーム 各ホーム
11 月	みんなの会（当事者会役員会） 全道Ｔボール大会 市内町内会清掃 みんなの会（当事者会役員会） 生活講座（交通安全） 各ホームイベント（市内飲食店・各ホーム内） 入居者ミーティング	グリーンパーク北ひろ 札幌ドーム 各町内会単位 グリーンパーク北ひろ 北広島自動車学校 各ホーム 各ホーム
12 月	消防設備点検 みんなの会イベント（1 泊レク） 年末総会 生活講座（栄養講座） 事業所広報誌発行 各ホームイベント（市内飲食店・各ホーム内） 入居者ミーティング	各ホーム 北広島クラッセホテル 親和町内会 中央公民館 ご家族・事業所・町内会 各ホーム 各ホーム
1 月	みんなの会イベント（初詣） みんなの会（当事者会役員会） 市内町内会総会・新年会 各ホームイベント（市内飲食店・各ホーム内） 入居者ミーティング	廣島神社 グリーンパーク北ひろ 各町内会単位 各ホーム 各ホーム
2 月	人権セミナー 消防避難訓練（地震想定） 各ホームイベント（市内飲食店・各ホーム内） 入居者ミーティング	札幌市社会福祉総合センター 各ホーム 各ホーム 各ホーム
3 月	新規ホーム開設準備・引越し対応 事業所広報誌発行 各ホームイベント（市内飲食店・各ホーム内） 入居者ミーティング	市内 2 か所 ご家族・事業所・町内会 各ホーム 各ホーム

福祉ホーム

平成２８年度
事　業　報　告

社会福祉法人北ひろしま福祉会

＜事業概要全体に関する報告＞

低額な料金にて居室及びその他の設備を提供すると共に、日常生活上の相談支援並びにトラブルなどの突発的な事象などが起きた場合に、ご家族を始めとする各所関係機関への連絡調整等を対応してきました。

具多的な対応として、各事象に合わせてホームミーティングを都度開催し、解決を図ることや、自然災害の有事に備えた避難訓練を実施しました（平成28年6月・平成29年2月）。

ホームミーティング時には、昨年度に引き続き利用者に対して“虐待とはどういうことか”や“差別とはなにか”についての理解を深める機会とし、利用者自身で関係者に発信できる力を養うための取り組みを実施してきました。その結果、利用者側から“虐待”・“差別”に関する質問や確認が増えました。

一方で、“障がいを抱える方に対して低家賃で住居を提供する”という福祉ホームサービスの利用ニーズが年々低下しています。背景として、生活面に対して総合的に支援が受けられる共同生活援助サービス（グループホームサービス）の利用ニーズが高まっていることが挙げられます。

また、共同生活援助サービスを利用される方に対して、平成23年度から施行された家賃補助（道市民税非課税世帯に対して援護の実施市町村から月額10,000円）が受けられることから、福祉ホームの家賃よりもグループホームの家賃が低額で利用できるという実態が挙げられます。

そういった経過から、平成28年度期首に担当行政との協議を重ね、当法人が運営している福祉ホームハーモニーを廃止し、利用者についは当法人が運営するグループホームで受け入れていく方向性で進みました。

利用者本人・ご家族を含めた関係者についても上記内容について同意を得て、平成29年3月31日付で福祉ホームハーモニーを廃止し、利用者は各転居先のグループホームへと引っ越しました。

入居されている利用者の高齢化が進んでおり、65歳という年齢を1つの基準に、身体機能や疾病の状況等からご本人状況を分析し、介護保険サービスを併給しながら“生活の豊かさ”につなげるため、介護支援専門員とのサービス調整の機会が増えました。

1．＜利用者動向＞
平成 29 年 3 月 31 日現在

定員：15 名⇒現員 4 名（充足率 26%）
定員内訳：ハーモニー定員（男性）10 名・ほたる定員（男性）5 名

2．＜月別入退居状況＞

期末在籍数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
4 名	入　居													0
	退　居							1					3	4

3．＜援護機関別人員＞

援護機関	男	女	援護機関	男	女	援護機関	男	女
北広島市	1							
江別市	1							
恵庭市	1							
津別市	1							

4．＜年齢別人員＞

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	合　計
男　子	0	0	2	1	0	0	1	4
女　子								
合　計	0	0	2	1	0	0	1	4

5．＜障害別人員＞

	身　体	知　的	精　神	発　達	重複（知的＋精神）	合　計
男　子	2	1	0	0	1	4
女　子						
合　計	2	1	0	0	1	4

6．＜就労先業種別等人員＞

業　　種	人数
就労移行・就労継続支援事業所	1
ピッキング作業	1
そ　の　他（無職・無所属）	2
合　計	4

7. ＜年間活動状況＞

No.1

月	活　動　内　容	場　所
4月	入居者ミーティング	各ホーム
	消防設備点検	ほたる
	生活講座（交通安全）	北広島自動車学校
	みんなの会（当事者会役員会）	グリーンパーク北ひろ
5月	入居者ミーティング	各ホーム
	市内一斉清掃	各町内会単位
	みんなの会（当事者会役員会）	グリーンパーク北ひろ
	みんなの会イベント（ボウリングツアー）	札幌市白石区
	事業所主催イベント（調理活動）	事業所内
6月	市内町内会花壇整理	各町内会単位
	共栄緑の郷温泉旅行	定山渓
	消防避難訓練（火災想定）	各ホーム
	当事者会交流会（千歳星の会）	札幌市動物園
	みんなの会（当事者会役員会）	グリーンパーク北ひろ
	入居者ミーティング	各ホーム
7月	町内会祭り	美沢町内会
	みんなの会イベント（市民の郷祭り出店シュミレーション）	グリーンパーク北ひろ
	みんなの会（当事者会役員会）	グリーンパーク北ひろ
8月	みんなの会イベント（市民の郷祭り試作イベント）	グリーンパーク北ひろ
	市民の郷祭り	法人入所施設敷地内
	生活講座（マナー）	市内公民館
	みんなの会（当事者会役員会）	グリーンパーク北ひろ
	入居者ミーティング	各ホーム
9月	みんなアート出店	かでる2・7
	市内町内会清掃	各町内会単位
	みんなの会（当事者会役員会）	グリーンパーク北ひろ
	入居者ミーティング	各ホーム
	みんなの会イベント（市民の郷祭り打ち上げ）	北広島市内飲食店
10月	消防設備点検	ほたる
	全道知的障がい者ボウリング大会	小樽市ボウリング場
	入居者ミーティング	各ホーム
	生活講座（栄養講座）	法人本部
	みんなの会イベント（千歳星の会交流会）	レストラングリーンパーク北ひろ
	みんなの会（当事者会役員会）	グリーンパーク北ひろ
11月	みんなの会（当事者会役員会）	グリーンパーク北ひろ
	生活講座（運動講座）	ふれあいステーションほっと
	全道Ｔボール大会	札幌ドーム
	生活講座（交通安全）	北広島自動車学校
	みんなの会（当事者会役員会）	グリーンパーク北ひろ
	入居者ミーティング	ほたる
12月	市内町内会年末総会	各町内会単位
	生活講座（栄養講座）	市内公民館
	入居者ミーティング	各ホーム
	みんなの会イベント（1泊レク）	市内ホテル

No.2

月	活動内容	場所
1月	みんなの会イベント（初詣・新年会）	広島神社
	事業所主催イベント（ラーメンパーティー・ビンゴ大会）	グリーンパーク北ひろ
	みんなの会（当事者会役員会）	グリーンパーク北ひろ
	消防査察	ハーモニー
	消防設備点検	ハーモニー
	入居者ミーティング	各ホーム
	市内町内会総会	各町内会単位
2月	人権セミナー	札幌市社会福祉総合センター
	市内町内会総会	各町内会単位
	みんなの会（当事者会役員会）	グリーンパーク北ひろ
	入居者ミーティング	各ホーム
3月	引越し対応	各所
	入居者ミーティング	各ホーム

フィットマン

平成２８年度
事　業　報　告

社会福祉法人北ひろしま福祉会

平成28年度　事業報告　居宅介護等事業所 フィットマン

フィットマン　事業内容報告

1. 事業概要報告

長きに渡って当法人の居宅介護サービスを支えてきたベテランのヘルパーが2名退職した為、新採用ヘルパーを雇用すると共に平成29年1月より正職員を異動で人員を確保しています。その兼ね合いで、11月から1月にかけて各サービスの件数は減少傾向となっています。引き継ぎ等もスムーズに行えており、2月以降は順調に運営することができています。今後も月に1度の職員会議の中でのケース検討や業務遂行上の課題点とその解決方法の検討・その他情報交換等を密にしていき、チームとしてサービスの向上につなげていきます。また、虐待防止人権侵害ゼロ会議を実施して、各職員に虐待や人権侵害について意識の向上等を目的に研修を行っていきます。

2. 指定居宅介護事業所としてのサービス提供

サービス種別・月間利用者件数

	身体介護	家事援助	通院介助	行動援護	月　計
平成28年　4月	0件	2件	0件	8件	10件
5月	0件	3件	0件	7件	10件
6月	0件	5件	0件	9件	14件
7月	0件	6件	0件	6件	12件
8月	0件	6件	0件	6件	12件
9月	0件	2件	0件	7件	9件
10月	0件	4件	0件	6件	10件
11月	0件	2件	1件	6件	9件
12月	0件	3件	0件	6件	9件
平成29年　1月	0件	4件	0件	6件	10件
2月	2件	3件	0件	7件	12件
3月	2件	2件	0件	8件	12件
合　　計	4件	42件	1件	82件	129件

総利用件数は129件でした。前年度より97件の減少でした。減少の要因は前年度に通院介助，家事援助を定期で利用されていた方のご都合により、利用がなくなった為で、年度開始から予測されていたことでした。新規で契約された利用者様は2名で、1名は移動支援も合わせて月2回の定期利用につなげられています。もう内1名は利用予定もありましたが体調面の悪化により、実施を見合わせており、件数が増えませんでした。行動援護の件数は前年度とほぼ変わらない数字でした。

3．北広島市委託事業「移動支援事業」の提供

サービス種別・月間利用者件数

	移動介護（身体介護有り）	移動介護（身体介護無し）	移動介護（通学支援）	月　計
平成28年　4月	10件	12件	0件	22件
5月	14件	13件	0件	27件
6月	11件	15件	0件	26件
7月	13件	14件	0件	27件
8月	14件	15件	0件	29件
9月	11件	12件	0件	23件
10月	10件	11件	0件	21件
11月	7件	11件	0件	18件
12月	5件	9件	0件	14件
平成29年　1月	9件	11件	0件	20件
2月	10件	15件	0件	25件
3月	8件	20件	0件	28件
合　　計	122件	158件	0件	280件

総利用件数は280件でした。前年度より17件の減少でした。減少の要因としては移動支援を行っていたヘルパー2名の退職により、キャンセルの件数が増えてしまった為です。しかし、身体介護有りに限れば、14件の増加となっており、介護度の高い利用者さんの利用が定着してきています。平成29年度は総利用件数300件を目標にすると共に内容の充実に力を入れていき、定期に利用していただける利用者獲得を図ります。

4. 北広島市委託事業「日中一時支援」の提供

サービス種別・月間利用者件数

	利用時間					利用件数
	1～2 時間	2～4 時間	4～6 時間	6～8 時間	8 時間以上	
平成 28 年 4 月	47 件（内 45 件）	61 件（内 48 件）	5 件（内 4 件）	12 件（内 0 件）	9 件（内 0 件）	134 件（内 97 件）
5 月	43 件（内 39 件）	50 件（内 42 件）	7 件（内 4 件）	5 件（内 0 件）	12 件（内 0 件）	117 件（内 85 件）
6 月	44 件（内 41 件）	69 件（内 58 件）	11 件（内 8 件）	3 件（内 0 件）	11 件（内 0 件）	138 件（内 107 件）
7 月	42 件（内 40 件）	61 件（内 55 件）	7 件（内 5 件）	5 件（内 0 件）	10 件（内 0 件）	125 件（内 100 件）
8 月	51 件（内 49 件）	68 件（内 56 件）	9 件（内 7 件）	5 件（内 0 件）	11 件（内 0 件）	143 件（内 111 件）
9 月	40 件（内 39 件）	61 件（内 55 件）	8 件（内 3 件）	5 件（内 0 件）	11 件（内 0 件）	125 件（内 99 件）
10 月	34 件（内 32 件）	53 件（内 43 件）	10 件（内 5 件）	3 件（内 0 件）	12 件（内 0 件）	112 件（内 80 件）
11 月	40 件（内 38 件）	52 件（内 46 件）	5 件（内 4 件）	2 件（内 0 件）	6 件（内 0 件）	105 件（内 88 件）
12 月	36 件（内 34 件）	51 件（内 44 件）	4 件（内 3 件）	2 件（内 0 件）	7 件（内 0 件）	102 件（内 83 件）
平成 29 年 1 月	37 件（内 36 件）	59 件（内 49 件）	7 件（内 6 件）	2 件（内 0 件）	7 件（内 0 件）	112 件（内 91 件）
2 月	34 件（内 33 件）	68 件（内 53 件）	8 件（内 7 件）	2 件（内 0 件）	12 件（内 0 件）	124 件（内 93 件）
3 月	42 件（内 38 件）	67 件（内 53 件）	8 件（内 13 件）	5 件（内 0 件）	11 件（内 0 件）	124 件（内 109 件）
合 計	490 件（内 464 件）	720 件（内 632 件）	95 件（内 68 件）	51 件（内 0 件）	119 件（内 0 件）	1475 件（内 1164 件）

総利用件数は 1,475 件でした。前年度に比べ、38 件の増加でした。増加の要因としては新規利用者さんの定期利用の定着が挙げられます。受け入れ態勢を整えて計画的にサービス提供を行った結果、フィットマンで過ごすことが楽しみとなり、週 2 回の利用が半年後には週 3 回となりました。現在では週 5 回の利用となっています。今後も新規利用者さんの受け入れを計画的に行っていき、新規利用者さんの受け入れ件数の増加につなげていきます。

職場適応援助者事業

平成２８年度

事　業　報　告

社会福祉法人北ひろしま福祉会

１．事業の概要

北海道労働局からの事業認可を受け、障害者職業センターによる支援計画承認のもと、障がい者の職業自立に必要となる生活面や技術面での助言指導及び就職後の適応を、対象障がい者や企業等に直接出向いて、その職務遂行に必要となる専門的知識及び技法を支援し、障がい者雇用全般に関わる普及促進と円滑な移行及び障がい者の経済的・社会的な安定継続を図ることを目的とした直接支援事業です。

２．当事業所における事業の経過

平成１８年９月　事業認可
平成１９年２月　事業開始
　　　　　１１月　新規１名受講し３名体制
平成２１年２月　新規２名受講
平成２５年９月　３名体制から２名体制
平成２６年２月　新規２名受講
　　　　　　　　法人内ＪＣ講習修了者６名　うち職業センター登録者２名
平成２７年２月　新規１名受講
　　　　　　　　法人内ＪＣ講習修了者５名　うち職業センター登録者２名
平成２７年４月　第１号職場適応援助者助成金事業と訪問型職場適応援助促進助成金事業の双方の事業の登録となる
平成２８年６月　第１号職場適応援助者助成金事業の終了

３．会議、研修等

①ジョブコーチ養成研修講師として派遣（於：名寄市・旭川市）
②ジョブコーチ支援事業推進協議会（於：札幌市　４回出席）
③法人内就労研修会、および就労専門委員会に出席

４．活動状況（実績）

①名寄職親会が主催するジョブコーチ養成研修の演習、および座学の講師として派遣依頼を受け、障がい者雇用促進のための支援者養成を行ってきました。

②新規の支援は、職業センターとの連携支援のもと２ケースの受託を行いました。

２６年度からの継続支援ケース３名のうち１名は、不適応事例となり事業所からの依頼により再支援となりました。また、２名は事業所へのナチュラルサポートも成功し安定した雇用継続となりました。

職場適応援助支援終了６か月での雇用定着率は、100%となりました。

③自法人から一般就労される方の支援も目標としましたが、Ａ型事業所であったことや就労先事業所での調整がつかなかったことにより未達となりました。

◎２６年度受託事業継続分

No.１　Ｎ・Ｓ氏（２６年度）

形態	職業Ｃからのｹｰｽ	支援の契機	雇用同時支援					重判	非該当
期間	事前支援等：		障害区別	知的（B-）	性別	男		年齢	23 歳
	職場適応援助：H27年3月2日~H27年6月1日		場所	北広島市大曲					
	フォローアップ：H27年6月2日~H28年6月1日		形態	他法人１号との連携支援。２名体制					
職務の内容	医薬品配送ｾﾝﾀｰにて入出荷作業		支援日数：１日			6ヵ月後の定着：可			

No.２　Ｈ・Ｈ氏（２６年度）

形態	職業Ｃからのｹｰｽ	支援の契機	雇用同時支援					重判	非該当
期間	事前支援等：		障害区別	知的（B）	性別	男		年齢	22 歳
	職場適応援助：H27年3月2日~H27年6月1日		場所	北広島市大曲					
	フォローアップ：H27年6月2日~H28年6月1日		形態	他法人１号との連携支援。２名体制					
職務の内容	医薬品配送ｾﾝﾀｰにて入出荷作業		支援日数：１日			6ヵ月後の定着：可			

◎２８年度受託事業分

No.３　Ｙ・Ｓ氏（２８年度）

形態	職業Ｃからのｹｰｽ	支援の契機	雇用同時支援					重判	非該当
期間	事前支援等：		障害区別	知的（B）	性別	男		年齢	23 歳
	職場適応援助：H28年4月6日~H28年8月5日		場所	苫小牧市					
	フォローアップ：H28年8月6日~H29年8月5日		形態	職業Ｃとの連携支援。２名体制					
職務の内容	スーパーでの商品補充、清掃		支援日数：19 日			6ヵ月後の定着：可			

No.４　Ｉ・Ｄ氏（２８年度）

形態	職業Ｃからのｹｰｽ	支援の契機	雇用同時支援					重判	非該当
期間	事前支援等：		障害区別	知的（B）	性別	男		年齢	20 歳
	職場適応援助：H28年5月25日~H28年8月24日		場所	札幌市厚別区					
	フォローアップ：H28年8月25日~H29年8月24日		形態	職業Ｃとの連携支援。２名体制					
職務の内容	総合物流会社社内清掃		支援日数：23 日			6ヵ月後の定着：可			

No.５　Ａ・Ｓ氏（２８年度）

形態	職業Ｃからのｹｰｽ	支援の契機	雇用同時支援					重判	非該当
期間	事前支援等：		障害区別	知的（B）	性別	女		年齢	27 歳
	職場適応援助：H28年8月29日~H28年11月28日		場所	札幌市厚別区					
	フォローアップ：H28年11月29日~H29年11月28日		形態	職業Ｃとの連携支援。２名体制					
職務の内容	総合物流会社社内清掃		支援日数：14 日			6ヵ月後の定着：未到来			

対象障がい者状況

対象 障がい者数	障がい区分					支援形態	
	身体	知的	精神	その他	発達障がい	自法人	職業C連携
5人	0人	5人	0人	0人	0人	0人	5人

職場適応援助終了後6ヶ月経過時点における雇用継続数及び定着率

雇用継続の数	障がい種別						定着率
	身体	知的	精神	その他	発達障がい	計	
対象者計	0人	2人	0人	0人		2人	
継続者数	0人	2人	0人	0人		0人	
離職者数	0人	0人	0人	0人		0人	100%

めーでる

平成２８年度
事　業　報　告

社会福祉法人北ひろしま福祉会

平成２８年度　事業報告　障がい者就労支援センターめーでる

めーでるは北広島市より地域生活支援強化事業の委託を受け、地域で様々な課題を抱えながら生活する障がい者の就労支援、生活支援、福祉サービスの調整や手続き、居住サポート事業、就労事業所への支援、企業支援等を行いました。

また、サービス等利用計画では質の向上を図るため行政や各関係機関と連携・相談しながら作成にあたり、受託件数も増加させたことにより黒字化を図ることが出来ました。

１．相談支援事業について

個々人が抱える多様化するニーズに対して、面談を通じて実績に合わせた的確な支援を実施しました。ひとつの相談ケースから生活支援であったり家族支援を必要とするケースなど複数の課題が見受けられ就労支援に特化した相談事業所でありながらも、下記のとおり生活支援に関わるケースが件数と共に年々増加となっています。

内容	平成２８年度	対前年比
就労準備支援	３０件	７６．８％
他機関・職場訪問・同行支援	７４件	７１．８％
求職	３５３件	８２．８％
人間関係・労働条件・仕事の内容	２２０件	７５．４％
訓練機関相談	１１９８件	１４５．８％
就労その他	３３３件	６５．８％
居住サポート	２４９件	１１９．０％
生活相談	９２２件	１０４．２％
その他（研修・会議）	３３１件	７４．４％
サービス等利用計画	２７３１件	１０４．２％
ジョブコーチ支援	１４５件	１８２．２％
支援合計	６５８６件	１０２．６％

２．新規相談、障がい別件数

平成２８年度の新規相談件数は５０件（前年度比５件増）で、身体障がい・発達障がいの方の割合が年々増加傾向となっています。

（内訳）

新規人数	知的障がい	精神障がい	身体障がい	発達障がい
５０人（前年４５）	９人（前年９）	２１人（前年３０）	１１人（前年６）	９人（前年０）

３．サービス等利用計画作成、モニタリング

指定特定相談支援事業では、障害福祉サービス又は地域相談支援を利用する全ての障がい者へ、支給決定又は支給決定の変更前に、サービス等利用計画の作成やサービス提供事業者との調整会議を行いました。また、厚生労働省で定める期間ごとにサービス等の利用状況の検証を行い、計画の見直しモニタリングを行いました。

（内訳）

計画作成	知的障がい	精神障がい	身体障がい	発達障がい
１７１件（前年１５７）	６５件	６７件	２２件	１７件

（内訳）

モニタリング	知的障がい	精神障がい	身体障がい	発達障がい
２３８件（前年１９２）	９７件	６６件	５３件	２２件

４．職場実習等の状況

スムーズな就職に結びつけられるよう北海道労働局が扱う雇用前の実習制度も活用し、対象者や企業の双方が雇用後の不安や課題の確認のため積極的に制度を活用し、１１件の実習調整を行いました。

	障がい	年齢層	性別	職種等
1	身体	５０代	男性	クリーニング
2	知的	３０代	女性	クリーニング
3	知的	３０代	男性	食品工場
4	知的	４０代	男性	車両洗浄
5	発達	２０代	女性	事務補助
6	知的	４０代	男性	除雪作業
7	知的	５０代	男性	軽作業
8	知的	４０代	女性	軽作業
9	発達	２０代	男性	クリーニング
１０	発達	２０代	男性	清掃
１１	発達	２０代	男性	清掃

５．事業所紹介

平成２８年度の就労系福祉サービス事業所への紹介件数は、前年度より１４件増え、３０件と、なりました。また、就労移行支援が４件、就労継続支援Ｂ型への紹介が２６件となりました。

今年度の傾向として、就労をすぐにでも目指したいという方よりも、まだ準備性が整っていないため訓練機関を通してから就労を目指したいという方が増えています。

６．就職支援実績の状況

就職件数は２２名で、２０名の目標に対し１１０％の達成率となりました。求職活動支援や職場訪問、求人等に関する情報提供の他、関係諸機関と連携を図りながら障がい者の就労および職場定着支援を重点に支援を行いました。

今年度の傾向として、一般求人よりもＡ型事業所への就労を希望する方が多く、結果２２名中、Ａ型事業所に１５名の方が雇用となりました。

（離職者が３名で定着率は７３％となっています。）

	障がい種別	年齢層	性別	仕事の内容	利用した制度	職場定着状況
1	精神	４０代	男性	福祉施設生活支援員	なし	２８．４．１～ ２８．４．３０
2	発達	２０代	男性	社会福祉協議会	なし	２８．４．１～
3	知的	５０代	男性	食品工場	労働局実習	２８．４．１～
4	精神	４０代	男性	小物制作作業	就労継続Ａ	２８．４．１９
5	知的	２０代	男性	食品工場	なし	２８．４．２０～
6	精神	３０代	男性	ＰＣデータ入力	就労継続Ａ	２８．４．２６～
7	精神	５０代	男性	厨房業務	就労継続Ａ	２８．５．２～
8	身体	５０代	男性	クリーニング	就労継続Ａ	２８．５．１６～
9	発達	２０代	男性	清掃	なし	２８．５．２５～
１０	身体･発達	２０代	男性	厨房業務	就労継続Ａ	２８．７．２～
１１	精神	２０代	女性	ＰＣデータ入力	就労継続Ａ	２８．７．１１～ ２８．１２．３１
１２	精神	４０代	男性	尿作業・ＰＣデータ	就労継続Ａ	２８．８．２～
１３	精神	３０代	男性	農園作業員	なし	２９．９．１～
１４	精神	３０代	女性	ＰＣデータ入力	就労継続Ａ	２８．９．２０～
１５	精神	４０代	女性	ＰＣデータ入力	就労継続Ａ	２８．９．２０～ ２８．１２．１０
１６	発達	２０代	女性	ＰＣデータ入力	就労継続Ａ	２８．１０．３～
１７	精神	５０代	女性	ＰＣデータ入力	就労継続Ａ	２８．１１．１～
１８	知的	６０代	男性	軽作業	就労継続Ａ	２８．１２．１～
１９	知的	２０代	女性	喫茶	なし	２８．１２．２～
２０	知的	４０代	男性	軽作業	就労継続Ａ	２９．１．４～
２１	精神	３０代	女性	ＰＣデータ入力	就労継続Ａ	２９．３．２０～
２２	精神	２０代	男性	小物制作作業	就労継続Ａ	２９．３．２６～

７、会議・研修等の状況

会議・研修会等に関しての出席、派遣状況は下記の通りです。

４月：		会議、研修なし。
５月：	５月１２日	北広島自立支援協議会ワーキング会議に２名出席。
	５月１７日 ～１９日	第６回ジョブコーチ養成研修　講師依頼を受け１名派遣。
	５月２５日	障害支援区分認定調査員研修に１名出席。
	５月２７日	石狩圏域協議会に１名出席。
６月：	６月２日	北広島市自立支援協議会就労支援部会に１名出席。
	６月２８日	相談支援専門員研修会に２名出席。
７月：	７月４日	北広島市自立支援協議会ワーキング会議に２名出席。
	７月１４日	成年後見セミナーに１名出席。
	７月１９日	平成２８年度相談援助技術研修に１名出席。
	７月２７日	全道相談支援サビ管研修に１名出席。
	７月２８日	平成２８年度第１回市内各種相談員交流会に１名出席。
８月：	８月３日	北広島市主催サービス等利用計画学習会に２名出席。
	８月３日	北広島市自立支援協議会就労部会に１名出席。
	８月２５日	北広島市自立支援協議会ワーキンググループ相談会に２名出席。
９月：	９月３日	きたひろしま暮らしサポートセンターぽると調整会議に１名出席。
	９月１３日	大谷地病院相談員研修対応。
	９月２７日	地域づくり委員会１名出席。
１０月：	１０月３日	北広島市自立支援協議会就労支援部会に２名出席。
	１０月２４日	北広島市自立支援協議会ワーキング会議に１名出席。
	１０月２７日	石狩管内就労相談支援事業所連絡会に１名出席。
１１月：	１１月８日	相談支援ネットワーク会議に１名出席。
	１１月１０日	北広島市自立支援協議会就労部会に１名出席。
	１１月１２日	サービス等利用計画とセルフプランの現状と課題研修に１名出席。
１２月：	１２月８日	こころの健康講座　大人の発達障がいに２名出席。
１月：	１月１２日	北広島市自立支援協議会就労支援部会に２名出席。
	１月１７日	北広島市自立支援協議会生活支援部会に２名出席。
	１月３０日	北広島市自立支援協議会当事者発表に２名出席。
２月：	２月１日	北広島市自立支援協議会ワーキンググループ相談会に２名出席。
	２月９日	のいける障がい者就労支援研修に１名出席。
	２月１０日 ～１２日	アメニティフォーラムに１名出席。
	２月１６日	道央知的障がい者地域福祉連絡協議会に１名出席。
	２月２３日	北広島市自立支援協議会就労支援部会に２名出席。

３月：　３月１７日　　石狩管内就労相談支援事業連絡会に１名出席。

３月１８日　　生活福祉資金貸付制度・生活困窮者自立支援制度学習会に１名出席。

３月２１日　　石狩圏域相談支援ネットワーク会議に１名出席。

東部緑の苑

短期入所東部緑の苑

平成２８年度

事　業　報　告

社会福祉法人北ひろしま福祉会

概　要

開設３年目を迎えた東部緑の苑は、法人理念である「利用者満足、家族満足の限りなき追求」の基、入居者ひとりひとりの思いを尊重したサービス提供を目指して１年間取り組んできた。
特別養護老人ホームと短期入所生活介護とも、設立当初からの変化の時期を経過して、全体的に安定期に移行した１年となった。
施設運営に大きく関わる稼働率では、特養は目標を上回ることができ、短期入所では目標には届かなかったものの、次年度につながる成長ぶりであった。

１．施設運営状況

１－１．月別入退居状況

特別養護老人ホーム東部緑の苑は、定員 100 名に対して現員 100 名（平成 29 年 3 月 31 日）となっている。平成 28 年度は 19 名の方が入退居され、前年度の 20 名とほぼ同様となった。
8 月と 12 月にそれぞれ 3 名の方が退居されたが、前年度に比べ均等な分布となった。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	１０月	１１月	１２月	1月	2月	3月	合計
特養	入居	1	3	0	1	2	3	1	0	3	2	0	3	19
	退居	2	2	1	1	3	1	1	1	3	1	2	1	19

１－２．介護度別入居状況

特別養護老人ホーム東部緑の苑の介護度別の新規入居者数は下表のとおり。
要介護３が 10 名、要介護４が７名、要介護５が２名となっており、昨年度とほぼ同様の分布となった。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	１０月	１１月	１２月	1月	2月	3月	計
特養	要介護３	1	1			1	3	1			2		1	10
	要介護４		1			1				3			2	7
	要介護５		1		1									2
	合計	1	3	0	1	2	3	1	0	3	2	0	3	19

１－３．月別稼働状況

特別養護老人ホーム東部緑の苑は、目標稼働率９７％に対して実稼働率９７．２％となり目標を達成した。７月と１２月に体調不良等で入院者が増え、その後退居になるケースが多く稼働が下がったが、前年度に比べて入院者が減ったことと、退居者が分散したため補充に要する時間が前年度に比べて短く済んだことが稼働率の向上に結び付いた。

短期入所生活介護では、目標稼働率８７．５％に対して実稼働率８４．２％となった。目標には届かなかったが、稼働率は上昇傾向にある。これは、相談員のネットワークが広がり由仁町、長沼町、栗山町を含むショートステイ受け入れ不足地域を顧客として取り込むことに成功していることが寄与していると考えられる。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
特養	人数	2,937	2,991	2,923	2,971	3,004	2,957	3,066	2,892	2,951	2,999	2,734	3,040	35,465
	稼働率	97.9%	96.5%	97.4%	95.8%	96.9%	98.6%	98.9%	96.4%	95.2%	96.7%	97.6%	98.1%	**97.2%**
短期	人数	484	530	463	546	468	441	519	534	502	530	540	596	6,153
	稼働率	81%	86%	77%	88%	75%	74%	84%	89%	81%	85%	96%	96%	**84.2%**

２．重点取組事項に関する報告

１）人権尊重と権利擁護への高い意識レベルを育てる取り組み

・毎月開催されるユニット会議の中で、全職員が権利擁護に関するテーマで研修を行った。

・きたひろサービスネット主催の虐待防止専門研修など外部の研修に計５回、延べ１３名を派遣し研鑽した。

・退勤時に不適切行為の有無を確認する署名入りチェック表を年間通じて行い、虐待に至る手前のグレーゾーンをなくす取り組みを行った。

２）統一された方法論に基づいて入居者・利用者の健康的な生活・人生をコーディネイト

・毎月開催されるユニットごとのケアカンファレンスで、日々の変化や課題の解決に向けた情報分析とケアプランの修正に取り組んだ。

・入居者の日常生活記録を整備してケアの質を高める目標に対しては、２４時間シートの整備がユニットによってバラツキがあり、29 年度への持ち越し課題となった。

・介護、看護、栄養、機能訓練などの多職種が連携して、口腔ケアの推進や摂食嚥下の状態変化に応じた食形態の変更などを行い、誤嚥性肺炎などを減らすことができた。一方、ユニットによって口腔ケアの実施状況に差があり、歯科医師の助言の基、29 年度の課題とした。

・介護職員による喀痰吸引実施に向けた取り組みでは、２名の看護師が指導の資格を取得し、３名の介護士が喀痰吸引の実務研修を終了した。28 年度末には喀痰吸引が可能な事業所登録申請を行った。（平成 29 年 4 月 19 日に北海道より事業所登録の通知が届いた。）

３）入院及び緊急時の受け入れ先となる近隣医療機関との関係づくり

・配置医との連携の基、地元の北広島病院での受け入れも増えた。また、症状に応じてかかる医療機関もある程度定まり、施設と医療機関の情報のやり取りも円滑に行えていた。

・入院して病状により特養に戻れないケースも数件発生したが、医療機関と当方、ご家族との調整により、次の施設への移行をスムーズに行えた。

４）優れた人間性と高い専門性を両立した職員の育成

・法人の職員育成研修計画に基づき、新人から副主任クラスまでのスタンダード研修を実施し、法人職員として標準的に有する知識や技術について学んだ。

・道社協や保健所、看護協会などが主催する外部研修に２６件参加し、専門性の向上を図った。

・施設内の短時間勉強会を月２回ペースで実施し、介護の技術に関する基本的なことなどをお互いに確認し、施設としての統一した支援に向けて取り組んだ。講師は、若手からベテランまでテーマごとに振り分け、担当者としても勉強が深まり、全体のレベルアップに寄与した。

５）地域や市民への啓蒙・交流に向けた取り組み

・北広島市の社協を通じて、畑の野菜栽培指導のボランティアに入ってもらい、土づくりから収穫までを指導してもらった。野菜作りは入居者にとっても楽しみとして好評であった。
・絵手紙サークルの先生が、毎月３枚のコルクボードに季節の絵手紙を貼って届けてくれて、地域交流スペースやセミパブリックスペースに掲示することで、入居者、家族の目を楽しませてくれた。
・地域の住民や職員の家族による居室清掃などの間接業務ボランティアも１年を通して受け入れた。
・施設の３大行事のひとつ緑苑祭のお手伝いとして、近隣の大学や専門学校から学生のボランティアを受け入れた。
・毎年恒例になった市内小学校４年生の訪問を受け入れ、施設見学とお年寄りとのふれあい、さらには楽器演奏や歌の披露で入居者と小学生の交流を行った。
・10 月に移動動物園を当施設に招き、近隣の幼稚園児にも動物園を開放して、入居者と園児がともに楽しい時間を共有した。

６）衣・食・住と生きがいの追及（その人らしく生きる為に必要なことを）

・清潔な身だしなみへの配慮については、食後の食べこぼしが衣類についたままであったりするケースを家族から指摘され、まだまだできてないところがあり、29 年度の課題となった。
・安心安全な食事については、できる限り地元の新鮮な野菜などを使うように配慮した。
・生活環境の雰囲気づくりについては、各階のセミパブリックスペースを各階の担当者による企画で整備して、入居者、家族、来客者にくつろいでもらえる空間を作ることができた。
・毎週水曜日には、音楽療法士による音楽療法を地域交流スペースで行い、入居者、家族の楽しみとして定着した。
・イトーヨーカドーと地元スーパーによる訪問販売会が月 1 回ほど開催されていたが、人手不足の関係で地元スーパーが撤退し、開催回数が減った。

７）看取り援助のあり方を追求した専門性を高める取り組み

・施設内の看取り援助委員会を定期開催し、看取り希望者への看取り契約の勧めなどに取り組んだ。
・看取り援助委員会主催の勉強会を開催し、職員が看取りに対する理解を深められるよう取り組んだ。
・看取りを経験した家族に協力願い、勉強会を実施して、施設としての方向性を確認した。

８）より専門的かつ効果的な機能訓練プログラムを提案

・東京や札幌で行われる福祉機器展などに参加して、先進技術や他施設の取り組みについて勉強し、当施設での活用を検討している。
・日々の機能訓練の実施状況の記録がユニットや担当者によってバラツキがあるため、29 年度への課題となった。

３．ユニット運営報告

３－１　特別養護老人ホーム

３－１－１　【はなろくしょうユニット】

・人権権利擁護については、毎月開催のユニット会議で職員間の意見交流ができた。
・家族と話をする時間が少なかったが、担当中心に情報共有と発信ができた。
・看取り援助は対象者は５名いるが、ユニットとして看取り未経験であり、さらに家族と話をしながら支援の充実に努めたい。
・件数は限られたが、個別の外出やお見舞い外出を実施できた。
・ユニット内行事のクリスマス会は好評であった。
・認知症対応としては、家具の配置など特性に配慮した環境づくりに取り組んだ。

３－１－２　【もえぎユニット】

・居室担当の意識は以前より高まり、入居者の気持ちに寄り添う姿勢が見えてきたが、未だ充分とは言えない。
・ユニットで計画していた行事は実施できた。個別のニーズ把握が不充分であり、グループ外出は対応できなかった。
・行事や訓練での３階フロア単位での連携は、当年度はできず次年度へ持ち越しとなった。
・ユニットとして看取り援助の経験を積むことができ、今後の糧となった。

３－１－３　【りきゅうユニット】

・２４時間シートの作成と更新による活用で個々の生活の様子を把握することができたが、職員間の情報共有については不充分であった。
・ユニット内での趣味活動や行事の開催は少なく、次年度への課題となった。
・他のユニットの連携についても、引継ぎが不充分でうまくいかないケースがあった。

３－１－４　【うぐいすユニット】

・一人一人の生活リズムに合った支援を心掛け、実施してきた。
・家族が用意した間食や予備食を提供することで、日々の楽しみを増やすことができた。
・排泄関係では使用するパットの種類や数を見直し、快適な睡眠を実現した成功例があった。
・日々の入居者の健康状態の変化を看護部門に迅速に伝え、早期対応と　　連携に努めた。

３－１－５　【ひすいユニット】

・人権尊重・権利擁護については、毎月開催のユニット会議で職員間の話し合いはできた。
・２４時間シートの整備が思うように進まなく、次年度の課題となった。
・看取り援助に対して、スタッフが勉強会に参加して見識を深めた。

３－２　短期入所生活介護

３－２－１　【わかくさユニット】

・レク企画はほぼ毎月できた。レクを楽しみに利用してくれる方が増えた。
・自宅ではできない楽しみも実現していく取り組みとして、意向を聞き取り午前に入浴、午後にレクなど柔軟に対応できた。
・雑誌や文庫本の活用が進み、楽しみが加わった。DVDは需要が少なくまだ活用できていない。
・居室のしつらえは需要に応じてテーブルを利用してもらった。
・テレビの貸し出し需要が増えたため、備品の段取りを進める必要が生じた。
・カラオケや体操など体を動かす活動で他者との関りも増え好評であった。
・本人や家族の意向に合わせて、生活リハビリでの手引き歩行などを実施した。
・新人職員の育成教育がうまく機能し、独り立ちをサポートできた。
・「おもてなし」の学びを深め、ワンランク上の介護を目指しているが、外部研修のユニット職員へのフィードバックができていなく、次年度への持ち越しとなった。

４．食事部門報告

４－１　食事の提供

・地元や国産を中心に安心安全な食材を使用し、季節を感じられるよう献立を工夫した。
・温冷配膳車をユニットによっては有効利用できてなく、課題となった。
・個々の嗜好に合わせて、代替え対応を実施した。
・日々の食事状況の観察などから、多職種連携でその方に合った食形態で提供した。
・個々に応じてトロミ量の調整や補助栄養を使用した。
・摂食嚥下委員会やケアカンファレンスの中で個々の食事状況などの評価を実施した。
・個々に応じたテーブルやいすの高さの調整、食事がしやすい食器の導入などを進めた。
・クックチルは試験的導入に至らなかった。

４－２　嗜好調査

・年２回の嗜好調査を実施した。
・人気第１位だった寿司について、寿司の日を設けて行事としても楽しんでもらった。

４－３　栄養ケアマネジメント加算

・サービス担当者会で入居者・家族からの希望を聞き取り、栄養ケア計画に反映した。
・全入居者に対して栄養ケア計画を作成し、必要な手続きを経て計画を更新した。

4－4　経口維持加算
・摂食嚥下委員会で対象者を選定し、ミールラウンドを経て会議にて話し合い、計画を作成して実施した。
・新しく加わった加藤歯科からのアドバイスが増えた。

4－5　委託業者との連携
・大量調理マニュアルに基づき衛生管理を行い、安全な食事を提供した。
・食形態などを相互に確認しながら食事提供を行った。
・行事食の提供もお互い協力して円滑に実施できた。

4－6　非常時の食事提供
・非常時の提供方法について明確でない部分があり、今後の課題とした。

4－7　行事食の提供
・食べる楽しみ・意欲を高めるために行事食を提供した。また、季節を感じていただいた。
・行事食についてはアクティビティ委員会と連携して行った。
・実施状況

５月・・・こどもの日
７月・・・焼肉（希望するユニット）
８月・・・七夕
９月・・・敬老会
１１月・・寿司の日
１２月・・クリスマス、大晦日
１月・・・正月
２月・・・節分
３月・・・ひなまつり
毎月・・・デザートバイキング（12～2 月は除く）
12～2 月・・月 1 回鍋の日

4－8　管理栄養士の資質向上
・法人内と外部の研修へ参加した。
・同業他施設の管理栄養士とのネットワークをつくり、相談や情報交換を行った。

５．看護部門報告

5－1　健康管理
・各種ワクチン企画、体調変化による早期発見と対応は可能な限り行えた。

５－２　入院の減少と早期退院の取り組み

・医師からの説明に立ち会って本人の状況を確認し、入院中の医療機関からの情報収集を行って、入院の減少と早期退院に努めた。

５－３　家族との連携

・看護師が担当するユニットを決めてから対象者が明確になり、積極的に家族とかかわる体制ができた。収集した情報を看護内で共有することが不足しており課題となった。

５－４　介護職員との連携

・オンコール体制については、幅広く対応できた。

・医療の専門性をわかりやすく介護職員に伝える取り組みを始め、好評であった。

５－５　配置医との連携

・ひがし在宅クリニックとの連携はスムーズに行えていた。

５－６　医療機関との連携

・配置医を通じて、協力病院以外に川西内科、希望が丘病院（療養型）と繋がりができた。

・歯科では隣接の南幌町の加藤歯科に協力を仰ぎ、口腔ケアや歯科治療をしてもらうこととなった。

５－７　通院・受診

・体調に応じて通院対応ができた。病状説明を専門的立場から聞きとり、情報発信と共有ができた。

５－８　看取り援助

・外部研修に３名参加し、研鑽した。

・看取り援助委員会、ユニットのケアカンファレンスなどで、情報発信できた。

・看取りの最終期のユニットおよび家族へのケア、呼吸停止時の対処、死亡診断時の立会い、エンゼルケアなど確実に実施することができた。

５－９　経口維持加算

・対象者の選定で看護からの専門的見地から意見を述べることができた。

５－１０　介護職員による喀痰吸引などに関する業務

・２名の看護師が指導者資格を取得した。

・３名の介護職員が実地研修を終え、資格を取得した。

・施設の登録申請を、２８年度内に行った。（29 年 4 月 19 日に登録完了）

・安全委員会を設置し、マニュアルを整備した。

６．委員会報告

６－１　アクティビティ委員会

・毎月の定例委員会と行事に合わせた臨時委員会を開催した。

・３大行事（祭り、敬老会、餅つき）の担当を決めて取り組んだ。前年までの経験が生きて、スムーズに行事を進めることができた。

・日中余暇活動のコーディネイトについては、委員会としての関りが薄く、ユニット任せになってしまった。

・ボランティアの受け入れ・地域貢献については、緑苑祭の時に社協等にボランティアのお願いをし、法人内のパンと蜜蝋キャンドルの販売の協力を得ることができた。

６－２　安全対策委員会

・定例の委員会以外に事故発生後など必要時に委員会を開催した。

・インシデント、アクシデントの報告書の様式を変更し、重複する記載を省略できるようソフト上の工夫を行った。

・カンファレンスをユニット主催にすることで、早期の開催が可能になった。

・気づきシートの様式を変更したことにより、記入しやすくなり集計担当者の負担が軽減した。

・服薬マニュアルは変更していないが、チェック方法を変更することで誤薬は減少している。

・薬の内服忘れ、セットミス、服薬介助前の確認で気づいた事象は発生しているため、引き続き注意喚起を促す必要がある。

・センサー類は委員会の時に確認ができており、管理できている。

・「介護現場の訴訟」「インシデント・アクシデント様式の記入方法」「記録の書き方」「アセスメント、対策」について、短時間勉強会を実施した。

６－３　衛生委員会

・毎月定例の委員会を行った。

・委員会開催時に衛生委員会の役割や労災の仕組み、腰痛発生の仕組み、過重労働について学んだ。後半は、委員からの積極的発言も増えた。

・労災防止の取り組みとして、アンケートの実施と環境改善のポスターを作り掲示した。階段室でのドアの開閉に伴う出会いかしら衝突防止のポスターなどである。

・腰痛予防のためのストレッチをポスターにして目につくところに掲示した。

・過重労働の軽減で離職率を減らす取り組みとして、超過勤務に対する取り組みを行った。法人の働き方検討員会と連携し、各ユニットの取り組みと評価を委員会の時に話し合った。自分たちで見直すことで、超過勤務は年度当初に比べて相当減少した。

６－４　感染症予防対策委員会

・毎月の定例委員会を開催した。
・感染症の拡大が懸念された時などに、臨時の委員会を開いた。
・適切な手洗いや嘔吐物処理など基本的な勉強会を実施した。
・感染症発生時のマニュアルについてユニットの委員を中心に確認した。
・家族向けに外部からの感染症要因持ち込みを防ぐための注意喚起文書を作成し送付した。
・コンタクトポイントの清掃消毒チェックリストを作成し、ルーチンワーク化した。
・法人内外の感染症関連の研修へ参加した。

６－５　広報委員会

・委員会の開催は毎月開催をやめて、必要時開催とした。必要事項はサイボウズを活用することで議論や集約を進めることができた。
・広報誌「瞬歌就燈」の定期発刊を年４回から、毎月発刊に変更し、家族への情報発信の機会を増やした。
・法人広報誌や施設内広報誌、Facebook への記事提供は、３大イベントである祭り・敬老会・餅つきを主として行った。
・入居者の写真掲載可否リストの更新を行った。その際、Facebook や SNS への掲載可否の項目も加えた。

６－６　サービス向上委員会

・毎月定例の委員会を開催した。
・職員の気づきを磨くために、内外研修への参加を進めてきたが、施設へのフィードバックが不足していたと感じる。
・６月から２月まで短時間勉強会を開催し、講師を務めた職員の成長は認められたが、受け手の成果についてはバラツキがあった。
・２年目職員が講師となる新卒新人職員研修会は、受ける側にとっては次の年に自分が講師を務めることになるため、双方の意識が高まる効果があった。
・家族向けのサービス提供に関するアンケートについては、法人として実施するものと時期的にも内容的にも重複したため、実施を見送った。

６－７　食事委員会

・毎月定例の委員会を開催した。
・定期的な行事食を企画し、楽しんでもらった。（詳細は食事部門に記載）
・介護食の試食会を検討していたが、サンプルの数に限りがあり委員会としての試食会は開催できなかった。
・嗜好調査と残菜調査を４月と１０月の２回実施した。集計結果を委員会で検討し献立や行事食へ反映していく。
・検食簿の指摘事項を栄養士が確認して改善策を考え、委員会の意見も聞いた。

・常備食のマニュアルは作成に至らず、次年度へ持ち越しとなった。
・クックチルの試験的導入は、現状のユニットの状況を考えると厳しい状況であり、実現には至らなかった。

６－８　褥瘡予防対策委員会
・隔月で委員会を開催した。
・褥瘡予防のポジショニング研修会を開催したが、職員のレベルアップにはまだ努力が必要な状況であった。
・褥瘡のアセスメントシートは、委員が委員会用に作っているケースがあり、ユニットで十分活用されていたとは言い難い状況であった。
・体交枕の管理を当委員会の下で行うこととし、施設全体で必要なところで活用できる体制とした。

６－９　摂食・嚥下委員会
・毎月の定例委員会を開催した。
・6月に全入居者の口腔状況のスクリーニングを実施し、重点的にケアが必要な方を確認した。
・１月から新規で加藤歯科が参入し、再度スクリーニングを行った。
・口腔ケア用具の正しい使用法の習得については、委員会として研修を実施できておらず、今後歯科の協力を得て実施することが持ち越しとなった。
・摂食嚥下と口腔ケアについて、新人職員らに研修を行った。
・基準書と手順書を整備し全職員に配布して、これらにしたがって口腔ケアを実施しているが、しっかりできているかの確認までには至らなかった。
・経口維持加算対象者に対して、多職種によるミールラウンドを実施した。
・毎月のユニットごとのケアカンファレンスでアセスメント、食形態、介助方法、姿勢などについて話し合った結果について、口から食べる楽しみを得られる取り組みに向けて情報共有を行った。
・５月に必要が生じた方への嚥下造影検査を医療機関で実施し、言語聴覚士からの評価と助言を受けた。

６－１０　排泄委員会
・隔月で委員会を開催した。
・委員会開催時に排泄用品業者を招いて、勉強会を実施し委員のスキルアップにつなげた。
・個別の問題を抱えるユニットや個人対応として、業者に直接指導してもらい改善することができた。
・排泄用品のコストダウンについて、業者からの情報を共有することで可能となり、夜間の安眠や皮膚トラブルの改善などの効果も得られた。
・施設保有のポータブルトイレについて、番号を付けて委員会管理とした。
・下剤を使用しない排便コントロールの試験的実施を１例行い、成功した。

６－１１　看取り援助委員会

・毎月の定例委員会を開催した。
・委員会へのユニット委員出席率は低く、ユニットの実情を把握するのが難しかった。
・28 年度は施設での看取りは５件であり、委員会中心に勉強を重ねてきたため、それぞれのケースに合わせて、円滑に対応できた。
・11 月に家族会主催の看取り援助勉強会で、終活セミナーとお食い締め研修を開催した。
・12 月に法人内外を対象に看取り事例報告会を開催した。
・看取り事例の後に、職員がアンケートに回答して今後に生かす取り組みを行った。

７．年間主要行事

４月	家族会総会
５月	家族会野菜苗植え　消防避難訓練　寿司の日　入居者選考委員会
６月	緑苑祭
７月	参院選挙不在者投票所開設　入居者選考委員会　法人虐待防止研修
８月	地域たすけあい会議　法人市民の郷まつり
９月	家族会勉強会　職員健康診断　敬老会　石狩振興局集団指導 入居者選考委員会　法人虐待防止・身体拘束ゼロ委員会
１０月	厚別警察防犯教室　石狩振興局実地指導　苦情解決委員会
１１月	地域たすけあい会議　インフルエンザ予防接種　家族会勉強会　寿司の日 入居者選考委員会
１２月	看取り事例発表会　餅つき大会　消防自主避難訓練　忘年会　鍋の日
１月	新年会　鍋の日　入居者選考委員会
２月	鍋の日　深夜業務従事者健康診断
３月	地域たすけあい会議　苦情解決委員会　入居者選考委員会 法人虐待防止・身体拘束ゼロ委員会

ケアプランセンター東部緑の苑

平成２８年度
事　業　報　告

社会福祉法人北ひろしま福祉会

Ⅰ.概要報告

1)利用者の確保と利便性の提供

①北広島市内４か所の地域包括支援センターをはじめ、札幌市白石区の包括支援センターへ毎月訪問し連携強化をはかった。

②特別養護老人ホーム東部緑の苑の入居待機情報等を医療機関や他の居宅介護事業所に対して定期的に提供した。

③北広島市内に加え近隣市町村の医療機関との連携強化のため随時訪問活動を行った。

2)事業所の適正な運営

①ケアプラン件数の増加に伴い、平成28年8月に主任介護支援専門員を採用し、9月から特定事業所加算Ⅲ取得の事業所として始動した。

②週末に定期的な会議と研修を開催し、情報共有と研鑽に努めた。

③週末の定例会議では事例検討等も行った。

④道社協からの介護支援専門員実務研修実習生を受け入れた。

⑤センター24時間化を図り、土日祝も含め連絡調整が可能となった。

3)適正なケアマネジメントの実施

①ケアプラン作成・アセスメント力向上のための研修として、12月から3月にかけて主任介護支援専門員研修を２名が受講した。

②給付管理については、サービス事業者と十分意思疎通し、正確な給付管理に心掛け、過誤や返戻は昨年度に比べて減少した。

③区分変更認定の助言等を行い、本人の状況に応じた認定に向けて取り組んだ。

4)人材の確保と育成

①当初7月に予定していたケアプラン件数に応じた職員採用は、8月となった。

②サービスネット研修の案内を併設の特養職員に向けても発信し、人材育成の一助とした。

5)北広島市介護サービス連絡協議会との連携

居宅部会やサービスネット研修に参加して情報交換やサービスの質の向上に努めました。

6) 地域たすけあい会議出席

年４回の地域たすけあい会議に併設の特養、デイサービスとともに出席し、地域住民との連携を深めた。

7) 東部地区認知症カフェへの協力

毎月開催の東部地区認知症カフェに対して運営の協力を行い、他施設や地域住民と　の連携を深め、加えて、認知症についての情報提供及び啓蒙活動を行った。

8）ほっと介護講座の開催
隔月で「ほっと介護講座」を開催し、地域住民への介護についての情報提供と連携を深めた。

9）認定調査受託業務
北広島市より介護認定調査について業務受託し、認定調査に取り組んだ。

Ⅲ. 利用実績報告

1）介護　724 件
2）予防　388 件

主任介護支援専門員を平成２８年８月に増員配置し、介護支援専門員３名体制とし、利用者数増加に努めた。

	要介護	要支援（指定介護予防支援事業者からの委託）（人）	計（人）
4月	45	34	79
5月	47	37	84
6月	48	36	84
7月	51	35	86
8月	57	33	90
9月	57	33	90
10月	61	34	95
11月	67	33	100
12月	71	33	104
1月	74	33	107
2月	77	29	106
3月	69	18	87
計	724	388	1112

デイサービスセンターヴェール

平成２８年度
事　業　報　告

社会福祉法人北ひろしま福祉会

１．項目別利用状況

《月別稼働状況》

		４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	年間
通 所 介 護	人数	159	156	183	174	211	174	197	202	214	267	271	243	2,451
予防通所介護	人数	20	24	22	25	19	23	21	20	32	46	42	54	348
	稼働率	34.4%	34.6%	39.4%	38.2%	42.5%	37.8%	41.9%	42.6%	47.3%	62.6%	65.2%	55%	45.1%

《月別利用状況》

		４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	年間
通所介護	新規	1			1	1	1		1	3	3	3		14
予防通所介護										2	1	1	1	5
	終了	1			1	2	1		1		1	1		8

《介護度別新規利用状況》

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	年間
要支援１										1			1
要支援２									2		1	1	4
要介護１	1			1	1			1	3	1	3		11
要介護２						1							1
要介護３										2			2
合計	1	0	0	1	1	1	0	1	5	4	4	1	19

２．年間主要行事

月	内　容
４月	買い物レクレーション、大正琴演奏会
５月	お花見外出
６月	曜日対抗レクレーション、ラーメンセレクトデー
７月	そうめんバイキング、避難訓練・防災教室
８月	市民の郷祭り、カフェガーデン
９月	焼肉パーティ、のど自慢大会、体力測定週間、職員健康診断
１０月	紅葉狩り
１１月	芸術文化祭
１２月	クリスマス会、餅つき会
１月	初詣、鏡開き
２月	節分、曜日対抗レクレーション
３月	ひな祭り、楽器演奏会

３．平成２８年度事業計画に対する報告

平成２８年度目標について

○現利用者の複数回利用に向けて顧客満足度の向上を図り、また、新規利用者開拓のための居宅介護事業所へのＰＲ活動並びに事業内容を公開し身近な事業所としての認知を高め、２８年度は２０名定員における充足率８０％を達成します。

→プログラム内容の充実と接遇の質の向上、より個別ニーズに寄り添った対応によって現利用者の満足度は高くなったと評価しており、複数回利用可能な通所介護の利用者では、約８０％が複数回利用となっている。

居宅介護事業所への定期訪問・パンフレット配布等のＰＲ活動、サービスネットや介護講座での関係各所との交流を積極的に行い、その結果として年度末の複数契約に結びついたと評価している。

しかし、１年の大半が５０％以下の稼働となったこともあり、年間では稼働率４５．１％と目標を大きく下回っている。

○利用者様の笑顔を大切に、ご本人はもとよりご家族との丁寧なコミュニケーションを図ります。

→一部の職員の接遇面に丁寧さと配慮が欠けており、利用者、家族からのクレームに発展したケースがあった。経験者、年配の職員が多く、サービス提供者としての基礎を互いに意識し牽制出来る体制づくりが急務である。